

基礎分野

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	論理的思考	2 (30)		
科目のねらい	正しい思考の形式と法則を学び、論理的思考、文章表現、論文の構成、論評ができる力を身につける。			
授業目標	1. 思考の形式と論理法則から、思考の筋道を理解できる。 2. 自己の考えを論理的に組み立て、表現できる。			
DPとの関連性	DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル 医学書院			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、課題 30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	論理学とは何か、論理的思考について理解できる 論理学を学ぶ意味が理解できる	講義 講義		
2	基本的な論理法則が理解し、表現できる (否定)	講義・演習		
3	基本的な論理法則が理解し、表現できる (連言)	講義・演習		
4	基本的な論理法則が理解し、表現できる (選言)	講義・演習		
5	基本的な論理法則が理解し、表現できる (条件法)	講義・演習		
6	ドモルガンの法則を理解し、表現できる	講義・演習		
7	逆・裏・対偶を理解し、表現できる	講義・演習		
8	基本的な論理法則が理解し、表現できる (証明)	講義・演習		
9	論証のための基本が理解できる (演繹と推測)	講義・演習		
10	演繹の正しさ、推測の適切さを捉えることができる	講義・演習		
11	論証の批判の方法について理解し、表現できる	講義・演習		
12	討議法の基本を理解し、テーマに沿って討議できる	講義・演習		
13	テーマに沿って、自己の考えを論理的にまとめることができる	演習		
14	テーマに沿って、自己の考えを論理的にまとめることができる	演習		
15	まとめた自分の考えを論理的に表現できる。	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	情報科学 I	1 (30)		
科目のねらい	医療・看護領域における高度情報化に対応するために、情報と多職種とのコミュニケーションの特徴を理解し、患者の情報を安全に活用するための、情報管理の方法を理解する。また、看護を発展させる看護研究に活用するために、情報処理の方法を理解する。			
授業目標	1. 医療・看護を取り巻く情報化の現実を理解し、看護師にとっての情報の活用・管理の方法が理解できる。 2. 看護現場に必要とされるコンピュータの基本的な機能と情報処理の基礎知識について理解できる。 3. パーソナルコンピュータの基本操作を習得し、活用スキルを身につける。			
DPとの関連性	DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	系統看護学講座 看護情報学 医学書院			
評価方法	記述試験60%、出席状況、授業態度、課題 40%			
回	授業内容と成果	方法		
1	情報の定義と特徴が理解できる	講義		
2	情報通信技術 (ICT) とその活用方法が理解できる	講義		
	情報化社会に求められものが理解できる			
3	医療、看護における情報とは何か理解できる	講義		
4	医療における情報システムについて理解できる	講義		
5	情報を扱う上での守るべき情報倫理が理解できる	講義		
6	コンピュータに関する基本が理解できる	講義		
	インターネットに関する基礎知識と注意点が理解できる			
	情報処理 (演習)			
7	情報収集の方法が理解できる (文献検索、インターネットアクセス、データ検索)	演習		
8	テーマについての文献検索ができる	演習		
9	Excelの基本操作とデータの取り扱い方が理解できる	演習		
10	Excelによる統計解析の方法が理解できる	演習		
11	Excelによる統計解析の方法が理解できる	演習		
12	計算ソフトを使用し集計表、グラフの作成ができる	演習		
13	計算ソフトを使用し集計表、グラフの作成ができる	演習		
14	文字情報を整理するレポートの書き方の基礎が理解できる	演習		
15	ワードを使用してレポートの作成ができる	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	情報科学Ⅱ	1 (15)		
科目のねらい	情報とコミュニケーションの専門職である看護師が専門性を発揮するために、情報通信技術(ICT)を看護の実践に活かす方法を理解する。			
授業目標	1. テーマについてのプレゼンテーション資料を作成できる。 2. 学内ZOOMを使用してプレゼンテーションとコミュニケーションができる。			
DPとの関連性	DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	系統看護学講座 看護情報学 医学書院			
評価方法	記述試験40%、出席状況、授業態度、課題 60%			
回	授業内容と成果			方法
1	プレゼンテーションの概要を理解できる			講義
2	テーマについてのプレゼンテーション資料作成ができる			演習
3	テーマについてのプレゼンテーション資料作成ができる			演習
4	テーマについてのプレゼンテーションができる			演習
5	インターネットにおける発表の方法が理解できる			講義
6	学内ZOOMを使用して発表ができる			演習
7	学内ZOOMを使用して発表ができる			演習
8	学内ZOOMを使用して、テーマに関する意見交換、コミュニケーションができる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	看護のための物理学	1 (30)		
科目のねらい	看護におけるさまざまな疑問を科学的に判断する力を身につけるために、物理学の原理・原則を理解する。			
授業目標	1. 人体に関連した物理現象を理解できる。 2. 物理学を用いて、看護活動におけるさまざまな行動や現象が理解できる。 3. 看護を行うときに使用する機械器具の物理的構造について理解できる。			
DPとの関連性	DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	New ベッドサイドを科学する ～看護に生かす物理学～ 学習研究社			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、課題 30%			
回	授業内容と成果			方法
1	1) 看護実践に物理学がどのように関係しているか理解できる			講義
	2) 移動動作に必要な力の加減と単位が理解できる			講義・演習
2	体位変換に必要なトルクの知識が理解できる			講義・演習
3	体位変換に必要な重さと重心の関係が理解できる			講義・演習
4	多種の仕事における消費エネルギーの求め方が理解できる			講義・演習
5	撃力と骨折の関係が理解できる			講義・演習
6	牽引療法に応用する力のつり合いが理解できる			講義・演習
7	看護にかかわる作用・反作用の法則が理解できる			講義・演習
8	仙骨・外転金・大腿骨頸部に作用する力の大きさが理解できる			講義・演習
9	看護にかかわる摩擦力が理解できる			講義・演習
10	温度変化と熱の出入りが及ぼす影響が理解できる			講義・演習
11	胃洗浄におけるサイフォンの原理が理解できる			講義・演習
12	1) 看護に必要な圧力が理解できる			講義
	2) ネブライザの原理が理解できる			講義
13	血圧に関する基本が理解できる			講義・演習
14	低圧持続吸引装置の原理が理解できる			講義・演習
15	酸素ボンベと真空管採血の原理が理解できる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	教育学	1 (30)		
科目のねらい	教育を通して看護援助を行う際の基盤とするために、教育学の基本となる知識から、成長発達と教育のつながり、それを援助する方法や社会のしくみを理解する。また、日常にある教育について理解する。			
授業目標	1. 教育の本質と意義・機能が理解できる。 2. 人間形成への教育環境が与える影響と意図的なかかわりが理解できる。 3. 生涯学習の意義や自主的な学習活動の特性が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護学生のための教育学			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題等 20%			
回	授業内容と成果	方法		
1	教育と看護との関係について、社会の中での役割や働きかけの意味から理解できる	講義		
2	教育の概念と教育の対象者が理解できる	講義		
	子どもの発達の視点から教育が理解できる	講義		
3	社会の変動と教育のあり方、課題が理解できる	講義		
4	教育を成り立たせる要素が理解できる (教えること)	講義・演習		
5	教育を成り立たせる要素が理解できる (学ぶこと)	講義・演習		
6	教育を成り立たせる要素が理解できる (他者との関わりを導く技法)	講義・演習		
7	教育を成り立たせる要素が理解できる (見まもる)	講義・演習		
8	教育を成り立たせる要素が理解できる (教育による発達理論)	講義・演習		
9	学びの場としての家庭教育と学校教育の果たす役割と課題が理解できる	講義		
10	教育の実践に必要な教育の目標と評価が理解できる	講義・演習		
11	教育の実践に必要な教育のメディアについて理解できる	講義・演習		
12	教育環境の変化と課題が理解できる	講義		
13	キャリア教育とその課題が理解できる	講義		
	ジェンダー、セクシュアリティと教育の課題が理解できる	講義		
14	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育の定義と背景が理解できる	講義		
	発達障害に対する特別ニーズ教育とインクルーシブ教育が理解できる	講義		
15	看護師の生涯学習の必要性と実際が理解できる	講義・演習		
	シティズンシップ教育について理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	人間関係論	1 (30)	16年	臨床心理士として病院に勤務
科目のねらい	看護師として患者との援助的関係、信頼関係を築くために、人間関係に関する基本的知識を理解し、人間関係を形成するための技法とその活用方法を理解する。また、医療人としての職務を遂行する際に良好な人間関係を構築できる応用力を身につける。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間関係の中の自己認知と対人認知を理解する。 人間関係を形成するためのさまざまな理論の特徴を理解し、コミュニケーション技法、代表的な対人関係技法を身につけることができる。 保健医療チームと患者を支える人間関係の特徴から、看護師としての人間関係の築き方を理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 人間関係論 医学書院			
評価方法	記述試験50%、レポート課題20%、実技30%			
回	授業内容と成果			方法
1	人間関係論とは何か知り、人間関係に関する概念や理論、スキルを学ぶ意義が理解できる			講義
2	人間関係を構成する自己認知と自己を取り巻く他者認知が理解できる			講義・演習
3	対人関係成立の条件と対人葛藤への理解できる			講義・演習
4	人間の態度と行動に影響する要因が理解できる			講義・演習
	人の攻撃性の理由とその抑制方法が理解できる			講義・演習
	人の援助行動の特性が理解できる			講義・演習
5	集団の特性が理解できる			講義・演習
	集団が個人に与える影響が理解できる			講義・演習
	リーダーシップのタイプとその影響が理解できる			講義・演習
6	人間関係を形成するコミュニケーションのしくみが理解できる			講義・演習
7	カウンセリング・心理療法の理論が理解できる			講義・演習
	カウンセリング・心理療法を看護職が用いる方法が理解できる			
8	コーチングの理論と基本的なスキルが理解できる			講義・演習
9	基本的コーチングスキルを用いて他者とコミュニケーションができる			演習
10	アサーティブ - コミュニケーションの理論とスキルが理解できる			講義
11	事例を用いて、看護師間、患者とのコミュニケーションをの方法を検討することができる			演習
12	保健医療チームの人間関係の特性とチームワークが理解できる			講義・演習
	多職種連携に向けてチームにおけるコミュニケーションエラーとその予防方法が理解できる			講義・演習
13	患者と医療者の関係のあり方を考えることができる			講義・演習
	患者と看護師の相互作用を評価するための方法が理解できる			講義・演習
14	プロセスレコードの目的と記述方法が理解できる			講義・演習
15	コミュニケーション演習においてプロセスレコードを用いたリフレクションができる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	臨床心理学	1 (15)	14年	児童指導員として病院に勤務
科目のねらい	さまざまな健康障害をもつ人の心理状況のとらえ方と病む人の心理を理解する。また、治療技法や治療の考え方から、臨床における心理的アプローチの方法を理解する。			
授業目標	1. 医療における臨床心理学の果たす役割が理解できる。 2. 心理アセスメントの方法が理解できる。 3. さまざまな心理療法の基本が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 心理学 医学書院			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題等 20%			
回	授業内容と成果			方法
1	ストレスとストレス反応の個人差について理解できる			講義
2	ラザルスの心理的ストレスモデルを参考に、自分がストレスを感じる時の状況を分析できる			講義・演習
3	心理アセスメントの方法と精神疾患・障害の分類方法が理解できる			講義
4	さまざまな心の問題が理解できる			講義
5	さまざまな心の問題が理解できる			講義
6	心の問題を抱える対象者への心理療法が理解できる (精神分析療法、行動療法)			講義
7	心の問題を抱える対象者への心理療法が理解できる (来談者中心療法)			講義
8	心の問題を抱える対象者への心理療法が理解できる (認知行動療法)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	哲学	1 (15)		
科目のねらい	哲学的な思考を用い、日常に潜む哲学的な問題を発見し考察する態度を身につけるために、哲学の基本的な考え方を理解し、人間や人間観、生きる意味などについて深く考えることができる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学の概念を理解し、人間の存在・価値について考えることができる。 2. 人間の本質について考えることができる。 3. 人間が文化的、社会的存在であることが理解できる。 4. 国や民族、地域により多様な文化や価値観があることが理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	講師資料			
評価方法	記述試験50%、出席状況、授業態度、課題等 50%			
回	授業内容と成果	方法		
1	哲学とは何か、看護において哲学を学ぶ意義が理解できる 哲学的思考とは何か、哲学的に考える意味が理解できる	講義 講義		
2	人間とは何か、存在や価値、有限性を考えることができる 人間が文化的、社会的存在であることが理解できる	講義・演習 講義・演習		
3	文化的背景が健康観に与える影響を考えることができる 理性と感情の関係について考えることができる	講義・演習 講義・演習		
4	責任とは何か、自由とは何かを考えることができる 勇気とは何か、正義とは何かを考えることができる	講義・演習 講義・演習		
5	死とは何か、死に直面しつつ生きることについて考えることができる 病気観、死生観、人間の霊的側面について考えることができる	講義・演習 講義・演習		
6	なぜ人間は宗教を求めるとかを考えることができる	講義・演習		
7	人生の意味について探求できる	講義・演習・GW		
8	人生の意味について探求できる	講義・演習・GW		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	社会学	1 (30)		
科目のねらい	社会を構成しているすべての人々を対象に、その健康の増進や回復、幸福な人生を支援するために、健康と社会のかかわりを理解し、社会学的なものの見方を身につける。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基本概念が理解できる。 2. 健康・病気と社会の関係が理解できる。 3. 保健医療の利用者と提供者を取り巻く社会環境と保健医療制度が理解できる。 4. 保健医療における課題と課題解決のための方向性が理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 社会学 医学書院			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題等 20%			
回	授業内容と成果	方法		
1	社会学の基礎概念が理解できる (人間の行動特性、社会構成)	講義		
2	社会学の基礎概念が理解できる	講義		
3	保健医療と社会、医学と社会学との関係が理解できる	講義		
4	健康・病気の見方・とらえ方が理解できる	講義・演習		
5	社会格差が健康・病気へ与える影響と課題が理解できる	講義・演習		
6	仕事を取り巻く社会的な状況の変化と問題が理解できる	講義・演習		
7	仕事や職場のあり方による健康への影響が理解できる	講義・演習		
8	健康と病気にかかわる人間の行動や社会心理的反応が理解できる	講義・演習		
9	患者－医療者間のコミュニケーションの特徴とその影響が理解できる	講義・演習		
10	保健医療職種の特徴が理解できる	講義		
11	ジェンダーとケア役割との関係が理解できる	講義・演習		
12	ジェンダーと健康の関係が理解できる	講義・演習		
13	保健医療における家族の役割を理解することができる	講義・演習		
14	コミュニティと地域社会のメカニズムと健康への影響が理解できる	講義・演習		
15	現代の保健医療システムの問題をグローバル化、日本社会の変動と関連づけて理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	医学英語	1 (30)		
授業のねらい	日常生活や医療現場に必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、基本的な医学用語・英語表現を理解し、表現することができる。			
授業目標	1. 医療や臨床で使用する英語が理解できる。 2. 様々な場面で、英語によるコミュニケーションがとれる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	ピアソン・ジャパン株式会社 Health Talk 実践的看護英語の基礎			
評価方法	口述・Listeningと筆記試験70% 授業中の態度、出席状況、ポテスト 30%			
回	授業内容と成果			方法
1	あいさつ・自己紹介が英語で表現できる			講義・演習
2	はじめて入院する患者へ対応する英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
3	看護師の役割を伝え信頼関係を築く英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
4	患者の生活習慣の情報収集をする英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
5	患者の生命徴候の観察をする英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
6	患者の血圧測定をする場面における英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
7	SUPPLEMENT II : カウンセリング技法を応用した会話技法が確認できる			講義・演習・ポテスト
8	患者の食事介助や治療食の説明をする英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
9	患者のベッドからの起き上がり介助場面の英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
10	患者のベッドから車椅子移動介助場面の英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
11	患者のベッドでの洗髪援助の場面の英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
12	足浴の援助とその効果の説明をする英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
13	採血及び採血時の患者の不安をやわらげる英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
14	外来においての患者指導場面の英語を理解し、表現できる			講義・演習・ポテスト
15	SUPPLEMENT III : Living With Cancer の和訳から子どもの気持ちを考えることができる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	健康とスポーツ	1 (30)		
授業のねらい	運動・スポーツの健康的意義を理解し、日常生活における健康保持・増進のための援助の方法を身につけることができる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動・スポーツによる身体への生理的影響を理解する。 2. 健康を維持増進させるために適した身体活動の内容を理解することができる。 3. 加齢や身体機能の変化に合わせた運動・スポーツについて理解できる。 4. レクリエーションの意義を理解し、レクリエーション計画・実施・評価ができる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	講師資料			
評価方法	筆記試験50%、レクリエーション課題30%、実技20%			
回	授業内容と成果	方法		
1	健康とは何か、運動とスポーツの必要性が理解できる	講義		
2	運動のしくみが理解できる（骨格筋等運動）	講義・実技		
3	運動のしくみが理解できる（呼吸循環器系と運動）	講義・実技		
4	運動のしくみが理解できる（脳・神経系と運動）	講義・実技		
5	健康の保持増進に必要な身体活動量について説明できる	講義・実技		
6	運動・スポーツと栄養について理解できる	講義・実技		
7	生活習慣病予防・介護予防と運動について理解できる	講義・実技		
8	加齢の変化に合わせた運動について理解できる	講義・実技		
9	身体機能の変化に合わせた運動について理解できる	講義・実技		
10	レクリエーションの基本を理解することができる	講義・実技		
11	レクリエーション計画の方法が理解できる	講義・実技		
12	事例のレクリエーション計画を作成できる	演習		
13	レクリエーションの実施過程が理解できる	講義		
14	事例のレクリエーション計画に基づき実施できる	演習		
15	レクリエーション実施後の評価・修正ができる	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	家族論	1 (15)		
科目のねらい	変容する現代家族について概観し、家族の健康を支えるための、家族の機能や役割を理解することができる。			
授業目標	1. 家族の意味、家族の基本概念が理解できる。 2. 近年における家族構造と変遷を捉え、現代における多様性や、ライフサイクルに合わせて家族が抱える問題を理解できる。 3. 家族を理解するための理論について理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座 別巻 家族看護学			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題等 20%			
回	授業内容と成果			方法
1	家族とは何か理解することができる			講義
2	家族構造について理解できる			講義
3	家族機能について理解できる			講義
4	家族機能を把握するモデルと方法について理解できる			講義・演習
5	現代の家族とその課題について理解できる			講義・演習
6	家族を理解するための家族発達理論、家族システム理論が理解できる			講義・演習
7	家族の変化を把握するための家族ストレス対処理論が理解できる			講義・演習
8	家族に変化をもたらすための介入方法が理解できる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	倫理学	1 (15)		
科目のねらい	対象の立場から倫理的問題を捉えた看護を実践するために、倫理学における基本的概念を理解し、医療における倫理的問題に対応するための基本的考え方と姿勢を身につける。			
授業目標	1. 生命倫理、看護倫理の基本的考え方が理解できる。 2. 生命倫理が必要とされる歴史的社会的背景と倫理的問題を理解できる。 3. 事例を通して、倫理的問題の解決のための方向性を理解することができる。 4. 他者の考え方や意見に耳を傾け、価値観の違いなどを尊重しながら話し合うことができる。			
DPとの関連性	DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	講師資料			
評価方法	記述試験50%、出席状況・授業態度・課題 50%			
回	授業内容と成果			方法
1	倫理学の基本的な考え方が理解できる			講義
2	生命倫理の特徴と歴史的社会的背景が理解できる			講義
	生命倫理の理論が理解できる			講義
3	インフォームドコンセントの歴史と看護職の責務が理解できる			講義
4	生命倫理における倫理的問題を理解できる (性と生殖)			演習
5	生命倫理における倫理的問題を理解できる (死と先端医療)			演習
6	事例の倫理的問題解決の方法を理解できる (不妊治療)			演習
7	事例の倫理的問題解決の方法を理解できる (末期がん患者)			演習
8	事例の倫理的問題解決の方法を理解できる (遺伝子検査)			演習

專門基礎分野

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	解剖学	2 (45)		
科目のねらい	人体は、構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに関連しあって高度な身体機能が営まれている。看護の対象である人間を理解するために、身体的側面である人体の器官系を学ぶ。			
授業目標	1. 人体各部位・器官の名称と、構造の特徴を説明できる。 2. 人体の構造が理解できる			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能 [解剖生理学] 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	人体のあらましと解剖学用語を理解できる。			講義
2	人体の部位の名称・位置関係について理解できる。			講義
3	人体の最小単位である細胞の構造が理解できる。			講義
4	骨格系の構造が理解できる			講義
5	骨格系の構造が理解できる			講義
6	筋系の構造が理解できる			講義
7	筋系の構造が理解できる			講義
8	循環器系の構造が理解できる			講義
9	循環器系の構造が理解できる			講義
10	呼吸器系の構造が理解できる			講義
11	呼吸器系の構造が理解できる			講義
12	消化器系の構造が理解できる			講義
13	消化器系の構造が理解できる			講義
14	泌尿器系の構造が理解できる			講義
15	泌尿器系の構造が理解できる			講義
16	生殖器の構造が理解できる			講義
17	生殖器の構造が理解できる			講義
18	内分泌系の構造が理解できる			講義
19	内分泌系の構造が理解できる			講義
20	神経系の構造が理解できる			講義
21	神経系の構造が理解できる			講義
22	感覚器の構造が理解できる			講義
23	感覚器の構造が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	生理学	2 (45)		
科目のねらい	人間の正常な生理機能、防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎を理解する。			
授業目標	1. 人体の正常な機能が理解できる。			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能〔解剖生理学〕 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	消化と吸収のしくみが理解できる			講義
2	消化と吸収のしくみが理解できる			講義
3	呼吸のしくみが理解できる			講義
4	呼吸のしくみが理解できる			講義
5	循環のしくみが理解できる			講義
6	循環のしくみが理解できる			講義
7	腎臓の機能とその調節が理解できる			講義
8	腎臓の機能とその調節が理解できる			講義
9	体温とその調節が理解できる			講義
10	体温とその調節が理解できる			講義
11	内分泌の各種ホルモンの種類と調節が理解できる			講義
12	内分泌の各種ホルモンの種類と調節が理解できる			講義
13	内分泌の各種ホルモンの種類と調節が理解できる			講義
14	神経系による調節が理解できる			講義
15	神経系による調節が理解できる			講義
16	感覚器の作用が理解できる			講義
17	感覚器の作用が理解できる			講義
18	中枢神経による情報処理機能が理解できる			講義
19	中枢神経による情報処理機能が理解できる			講義
20	筋運動のしくみが理解できる			講義
21	筋運動のしくみが理解できる			講義
22	筋の動きと変化が理解できる			講義
23	筋の動きと変化が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	生化学	1 (30)		
科目のねらい	生体を構成している物質は、常に代謝を繰り返している。物質やエネルギー代謝について理解し、生体の恒常性がどのように保たれているかを理解することによって、生体を科学的に捉え、疾病時の異常を理解する。			
授業目標	1. 生命活動をつかさどる生体分子の構造と性状を理解する。 2. 物質・エネルギー代謝と臓器・組織間の相互作用を理解する。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 生化学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	生体の化学の基礎知識が理解できる			講義
2	生体の化学の基礎知識が理解できる			講義
3	代謝の基本と補酵素・ビタミンが理解できる			講義
4	糖の種類が理解できる			講義
5	糖の代謝が理解できる			講義
6	脂質の種類が理解できる			講義
7	脂質の代謝が理解できる			講義
8	タンパク質の種類・働き・アミノ酸の分類が理解できる			講義
9	タンパク質の代謝・アミノ酸の代謝・ビリルビン代謝が理解できる			講義
10	遺伝子と核酸が理解できる			講義
11	遺伝子の複製・修復・組み換えが理解できる			講義
12	遺伝子の転写が理解できる			講義
13	細胞のシグナル伝達の機序が理解できる			講義
14	内分泌の生化学的基礎が理解できる			講義
15	がんの性質とがん遺伝子が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病論総論	1 (15)	5年	医師として病院に勤務
科目のねらい	科学的根拠に基づいた看護を行うためには、患者の持つ疾患の病態について正しく認識することが必要である。そのための病理学的な視点で病気の成り立ちと病的変化について学習する。			
授業目標	1. 病気の成り立ちと病的変化が理解できる			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 病理学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	病理学の概要が理解できる			講義
2	細胞・組織の障害と修復、炎症が理解できる			講義
3	免疫、移植と再生医療が理解できる			講義
4	感染症の成り立ちが理解できる			講義
5	循環障害が理解できる			講義
6	代謝障害が理解できる			講義
7	老化と死、先天異常と遺伝子異常が理解できる			講義
8	腫瘍の成り立ちが理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病論各論	1 (30)	7年	医師として病院に勤務
科目のねらい	科学的根拠に基づいた看護を行うためには、患者の持つ疾患の病態生理について正しく理解することが必要である。人体の正常な構造と機能の破綻により、症状や疾病が引き起こされる経過を理解する。			
授業目標	1. 主要な症状の病態生理について理解する			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 病態生理学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	病態生理学を学ぶための基礎知識が理解できる			講義
2	皮膚・体温調節のしくみと病態生理が理解できる			講義
3	免疫の仕組みと病態生理が理解できる			講義
4	体液調節のしくみと病態生理が理解できる			講義
5	血液の働きと病態生理が理解できる			講義
6	循環のしくみと病態生理が理解できる			講義
7	循環のしくみと病態生理が理解できる			講義
8	呼吸のしくみと病態生理が理解できる			講義
9	呼吸のしくみと病態生理が理解できる			講義
10	消化・吸収のしくみと病態生理が理解できる			講義
11	腎・泌尿器のしくみと病態生理が理解できる			講義
12	内分泌代謝のしくみと病態生理が理解できる			講義
13	生殖のしくみと病態生理が理解できる			講義
14	脳・神経、筋肉の働きと病態生理が理解できる			講義
15	感覚器の働きと病態生理が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	治療論 I	1 (30)	11年	薬剤師として病院にて勤務
科目のねらい	疾患の治療における大きな手段として薬物療法がある。近年、患者はインフォームドコンセントにより、治療に対する理解と納得した上で、治療に能動的に参加するようになり、患者を中心としたチーム医療が求められる。薬物療法を行う上での薬理作用と使用方法について学び、患者指導の際の適切な説明ができるようにする。			
授業目標	1. 薬物動態を理解し人体に及ぼす影響が理解できる。 2. 薬物の作用、有害作用・禁忌を理解し観察・指導の注意点を理解する。			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。 DP 5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 薬理学〔疾病の成り立ちと促進〕			医学書院
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	薬物とは何か、薬物の使用目的、看護師の役割について理解できる。			講義
2	薬の体内動態、薬の相互作用について理解できる。			講義
3	薬の有害作用、薬の管理と新薬の誕生について理解できる。			講義
4	看護業務に必要な薬の知識について理解できる。			講義
5	抗感染症薬、消毒薬について理解できる。			講義
6	抗がん剤・麻薬性鎮痛剤について理解できる。			講義
7	免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬について理解できる。			講義
8	末梢での神経活動に作用する薬物について理解できる。			講義
9	中枢神経系に作用する薬物について理解できる。			講義
10	心臓・血管系に作用する薬物について理解できる。			講義
11	呼吸器系に作用する薬物について理解できる。			講義
12	消化器系・生殖系・物質代謝に作用する薬物について理解できる。			講義
13	皮膚科用薬・眼科用薬について理解できる。			講義
14	救急時に使用される薬物について理解できる。			講義
15	輸液・輸血・血液製剤について理解でき、正しい計算ができる。			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	治療論Ⅱ	1 (30)	18年	言語聴覚士として病院に勤務
			29年	管理栄養士として病院に勤務
科目のねらい	健康を維持するために食事と栄養の知識を理解する。また、疾病の治療のひとつである食事療法について学び、疾病別の栄養管理を理解する。 さらに、健康障害を持つ対象へ個別的な看護を提供するための治療過程におけるリハビリテーションの基礎的知識を習得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に必要な栄養学の基礎を習得する。 2. 疾病別の栄養管理の実際について理解する。 3. 障がい・状態別リハビリテーションの実際を理解する。 4. リハビリテーションの概念と各種測定の意味を学ぶ。 			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。 DP 5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 栄養学		医学書院	
	系統看護学講座 別巻リハビリテーション看護		医学書院	
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	栄養素の種類と働きについて理解できる。			講義
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝・エネルギー代謝について理解できる。			講義
3	食事と食品の関連および栄養状態の評価・判定について理解できる。			講義
4	人間栄養学と栄養ケア・マネジメントについて理解できる。			講義
5	ライフステージと栄養について理解できる。			講義
6	臨床での栄養管理の実際について理解できる。			講義
7	健康づくりと食品・食事・食生活について理解できる。			講義
8	リハビリテーション概論（定義・理念）について理解できる。			講義
9	リハビリテーション医療チーム・医療安全について理解できる。			講義
10	運動器に障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
11	中枢神経障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
12	呼吸器・循環器障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
13	感覚器に障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
14	ADLとIADL評価・ROMについて理解できる。			講義・演習
15	リハビリテーションの実際が理解できる。			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	治療論Ⅲ	1 (15)	21年	医師として病院に勤務
科目のねらい	外科的治療、放射線治療の治療過程における必要な知識を理解する。治療に関する人体への影響を理解し、心理的・社会的側面からの対象理解の基礎とする。患者の意思を尊重し、納得のいく意思決定を支援するための基礎的な知識を習得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法・放射線療法による生体侵襲について理解できる。 2. 手術による機能低下・機能障害を受けた対象の生命維持と健康回復過程を理解する。 3. 放射線療法と看護の役割を学ぶ。 4. 放射線治療の概要が理解できる。 			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。 DP 5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。			
テキスト等	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	手術侵襲と生体反応が理解できる (第1章のB)			講義
2	麻酔法の種類と術前から術後の管理について理解できる。(第3章のA)			講義
3	外科的治療の実際が理解できる (第4章のA・B、第1章のE)			講義
4・5	術後合併症の発生機序と予防および対応について理解できる (第9章のB・C)			講義
6・7	各画像診断の特徴と見かたが理解できる (第2章～第7章の各画像診断の特徴と見かた、実際の画像についての理解)			講義 講義
8	放射線治療の原理と基礎・有害反応が理解できる (第8章のA・B・C)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病と治療 I	1 (30)	10年	医師として病院に勤務
			11年	医師として病院に勤務
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、呼吸器系・循環器系の構造と機能を理解したうえで、呼吸器系・循環器系の症状と病態生理および呼吸器系・循環器系の疾患・検査・治療について学ぶ。呼吸器・循環器系の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 呼吸器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 循環器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	呼吸器の構造と機能、症状と病態生理が理解できる (第2章、第3章)	講義		
2	呼吸器の主な検査が理解できる (第4章のA・B)	講義		
3	呼吸器疾患の主な治療・処置が理解できる (第4章のC)	講義		
4	呼吸器の代表的な疾患が理解できる (第5章のA・B)	講義		
5	呼吸器の代表的な疾患が理解できる (第5章のC)	講義		
6	呼吸器の代表的な疾患が理解できる (第5章のE・G)	講義		
7	循環器の構造と機能、症状と病態生理が理解できる	講義		
8	循環器の疾患を診断する主な検査が理解できる	講義		
9	循環器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (内科的治療)	講義		
10	循環器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (外科的治療)	講義		
11	虚血性心疾患の疾患の理解ができる	講義		
12	心不全の疾患の理解ができる	講義		
13	血圧異常の疾患の理解ができる	講義		
14	不整脈の疾患の理解ができる	講義		
15	弁膜症の疾患の理解ができる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病と治療Ⅱ	1 (30)	38年	医師として病院に勤務
			9年	医師として病院に勤務
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、消化器系・代謝、内分泌系の構造と機能を理解したうえで、消化器系・代謝、内分泌系の症状と病態生理および消化器系・代謝、内分泌系の疾患・検査・治療について学ぶ。消化器系・代謝、内分泌系の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	1. 消化器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 代謝、内分泌系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	消化器の構造と機能が理解できる	講義		
2	代表的な消化器疾患の病態生理が理解できる	講義		
3	代表的な消化器疾患の症状が理解できる	講義		
4	消化器の疾病を診断する主な検査が理解できる	講義		
5	消化器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (内科的治療)	講義		
6	消化器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (外科的治療)	講義		
7	食道の疾患の理解ができる (食道がん・食道アカラジア・胃食道逆流症)	講義		
8	胃・十二指腸の疾患の理解ができる (機能性胃腸炎・胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃がん)	講義		
9	腸および腹膜の疾患の理解ができる (過敏性腸症候群・腸炎・腹膜炎虫垂炎・ヘルニア・腸閉塞・腸ポリープ・大腸がん)	講義		
10	肝臓・胆嚢の疾患の理解ができる (肝炎・肝硬変症・門脈圧亢進症・肝不全・肝臓がん・胆石症・胆嚢炎および胆管炎・胆嚢がんおよび胆管がん)	講義		
11	膵臓の疾患の理解ができる (膵炎・膵臓がん)	講義		
12	代表的な代謝・内分泌疾患の病態生理と主要な症状が理解できる	講義		
13	代謝・内分泌の疾病を診断する主な検査が理解できる	講義		
14	代謝・内分泌疾患の主な治療が理解できる	講義		
15	代謝・内分泌疾患の理解ができる (糖尿病・脂質代謝異常・痛風・内分泌疾患・間脳・下垂体機能障害・甲状腺機能障害)	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	疾病と治療Ⅲ	1 (30)	9年	医師として病院に勤務
			16年	医師として病院に勤務
			36年	医師として病院に勤務
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器の構造と機能を理解したうえで、免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器の症状と病態生理および免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器の疾患・検査・治療について学ぶ。これらの健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫・アレルギー・膠原病・感染症の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 血液・造血器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 3. 腎・泌尿器の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
1	代表的な免疫・アレルギー・膠原病の疾患の病態生理が理解できる			講義
2	代表的な免疫・アレルギー・膠原病の症状が理解できる			講義
3	免疫・アレルギー・膠原病の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
4	免疫・アレルギー・膠原病の治療が理解できる			講義
5	代表的な感染症の病態生理と症状が理解できる			講義
6	代表的な感染症の病態生理と症状が理解できる			講義
7	代表的な血液・造血器系の疾患の病態生理が理解できる			講義
8	代表的な血液・造血器系の疾患の症状が理解できる			講義
9	血液・造血器系の疾病を診断する主なの検査と治療が理解できる			講義
10	腎・泌尿器の構造と機能が理解できる			講義
11	代表的な腎・泌尿器疾患の病態生理と症状が理解できる			講義
12	腎・泌尿器の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
13	腎・泌尿器疾患の内科的治療が理解できる			講義
14	腎・泌尿器疾患の外科的治療が理解できる			講義
15	腎・泌尿器の主な疾患の理解ができる (腎不全・糸球体腎炎・間質性腎炎・全身性疾患による腎障害・腎尿路感染症)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病と治療Ⅳ	1 (30)	29年	医師として病院に勤務
			32年	医師として病院に勤務
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、脳・神経系・運動器の構造と機能を理解したうえで、脳・神経系・運動器の症状と病態生理および脳・神経系・運動器の疾患・検査・治療について学ぶ。脳・神経系・運動器の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 運動器の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
1	脳・神経系の構造と機能が理解できる			講義
2	代表的な脳・神経系疾患の病態生理と症状が理解できる			講義
3	脳・神経系の疾病を診断する主な検査と治療が理解できる			講義
4	脳・神経系の主な疾患が理解できる (脳血管障害・脳腫瘍)			講義
5	脳・神経系の主な疾患が理解できる (髄膜炎・脳炎)			講義
6	脳・神経系の主な疾患が理解できる (てんかん・認知症)			講義
7	脳・神経系の主な疾患が理解できる (パーキンソン・筋委縮性側索硬化症・筋ジストロフィー)			講義
8	運動器の構造と機能が理解できる			講義
9	代表的な運動器疾患の病態生理と症状が理解できる			講義
10	運動器の疾病を診断する主な検査と治療が理解できる			講義
11	運動器疾患が理解できる (先天性疾患)			講義
12	運動器疾患が理解できる (骨折・脱臼)			講義
13	運動器疾患が理解できる (捻挫および脱臼)			講義
14	運動器疾患が理解できる (関節の疾患)			講義
15	運動器疾患が理解できる (脊椎の疾患)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	疾病と治療V	1(30)		
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、女性生殖器系・感覚器系の構造と機能を理解したうえで、女性生殖器系・感覚器系の症状と病態生理および女性生殖器系・感覚器系の疾患・検査・治療について学ぶ。女性生殖器系・感覚器系の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 感覚器系（皮膚）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 3. 感覚器系（眼）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 4. 感覚器系（耳鼻咽喉）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 5. 感覚器系（歯・口腔）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学15 歯・口腔			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	代表的な女性生殖器系の疾患の病態生理と主要症状が理解できる	講義		
2	女性生殖器系の疾病の診断をする主な検査が理解できる	講義		
3	女性生殖器系の主な疾患と治療が理解できる	講義		
4	代表的な感覚器（皮膚）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる	講義		
5	感覚器（皮膚）の疾病の診断をする主な検査が理解できる	講義		
6	感覚器（皮膚）の主な疾患と治療が理解できる	講義		
7	代表的な感覚器（眼）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる	講義		
8	感覚器（眼）の疾病の診断をする主な検査が理解できる	講義		
9	感覚器（眼）の主な疾患と治療が理解できる	講義		
10	代表的な感覚器（耳鼻咽喉）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる	講義		
11	感覚器（耳鼻咽喉）の疾病の診断をする主な検査が理解できる	講義		
12	感覚器（耳鼻咽喉）の主な疾患と治療が理解できる	講義		
13	代表的な感覚器（歯・口腔）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる	講義		
14	感覚器（歯・口腔）の疾病の診断をする主な検査が理解できる	講義		
15	感覚器（歯・口腔）の主な疾患と治療が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	看護形態機能学 I	1 (15)	10年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護学においては対象の生活を整えることに責任がある。私たちの毎日の暮らしは生命に直結し、体のさまざまな機能を駆使して生活行動を行っている。そのため、1年次に学習した解剖学・生理学の知識を看護の視点で更に深く学習し、生活行動と関連させて理解することで、対象に適した生活援助の実践につなげることをねらいとする。			
授業目標	1. 人体の構造と機能を生活行動と関連づけて理解できる 2. 日常生活行動を行うために、身体各部位がどのように使われているかを理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護形態機能学 第4班 日本看護協会出版会 看護形態機能学 ワークブック 日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験50%、アクティブラーニング評価50%			

回	授業内容と成果	方法
1	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング
2	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング
3	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング
4	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング
5	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング
6	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング
7	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング
8	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	看護形態機能学Ⅱ	1 (30)	21年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護師は、健康上の理由で日常生活行動ができない対象に対し、解剖生理などの知識を用いてアセスメント、看護判断を行い、看護技術の提供を行う。アセスメントや援助を行う際には、解剖生理学に加え病態生理学の理解が必要である。そのため、1年次に学習した解剖生理学および病態生理学の知識を看護の視点で更に深く学習し、生活行動と関連させて理解することで、健康障害をもつ対象に適した生活援助の実践につなげることをねらいとする。			
授業目標	1. 人体の構造と機能を生活・生活行動と関連づけて理解できる 2. 疾患の病態が生活・生活行動にどのように影響するか理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護形態機能学 第4班 日本看護協会出版会 看護形態機能学 ワークブック 日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験：50% アクティブラーニング：50%			

回	授業内容と成果	方法
1	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
2	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
3	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
4	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
5	人が「食べる」ということが障害される原因と現れる症状、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
6	膵臓・肝臓・胆管・胆嚢の疾患の病態が「食べる」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
7	膵臓・肝臓・胆管・胆嚢の疾患の病態が「食べる」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
8	膵臓・肝臓・胆管・胆嚢の疾患の病態が「食べる」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
9	人が「トイレに行く」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
10	人が「トイレに行く」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
11	人が「トイレに行く」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
12	人が「トイレに行く」ということが障害される原因と現れる症状、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
13	腎・泌尿器系の疾患の病態が「トイレに行く」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
14	腎・泌尿器系の疾患の病態が「トイレに行く」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
15	腎・泌尿器系の疾患の病態が「トイレに行く」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	微生物学	1 (30)		
科目のねらい	医学が対象とする病気の中で、感染症は大きな比重を占めている。その原因となる種々の微生物や寄生虫などの基本的性質や生体への影響を知り、対処方法を理解する。また、近年の感染症の特徴である院内感染、新興感染症などの問題点について理解を深める。			
授業目標	1. 病因微生物の生理的特徴と病原性・感染機構が理解できる 2. 病原微生物の感染のしくみと防御機構が理解できる 3. 主な病原微生物と感染症が理解できる			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 微生物学〔疾病の成り立ちと促進〕 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	微生物学の確立、感染症の原因としての微生物について理解できる。			講義
2	感染と発症成立について理解できる。			講義
3	感染と免疫について理解できる。			講義
4	細菌の特徴について理解できる。			講義
5	細菌の陽性菌の病原性について理解できる。			講義
6	細菌の陰性菌の病原性について理解できる。			講義
7	その他の細菌の病原性について理解できる。(ワクチン関連菌)			講義
8	ウイルス学の特徴について理解できる。			講義
9	DNAウイルスの病原性について理解できる。			講義
10	RNAウイルスの病原性について理解できる。			講義
11	特殊なウイルスの病原性(エボラ・エイズなど)について理解できる。			講義
12	肝炎及びプリオン病、真菌感染症について理解できる。			講義
13	寄生虫感染症と感染症の治療薬について理解できる。			講義
14	滅菌及び消毒とワクチン、感染症対策について理解できる。			講義
15	院内感染対策について理解できる。			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	保健医療論	1 (15)	31年	医師として病院に勤務
科目のねらい	保健医療全体の概要と看護学の橋渡しをするために、医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について理解できる。 保健医療を円滑に進めるための多職種間の連携について理解できる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 保健医療のあり方の変遷と現在の医療のしくみが理解できる。 現代医療の最前線と新たな課題が理解できる。 多職種連携の意義、あり方が理解できる。 チーム医療・ケアの理念を理解し、多職種の役割が理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 医療概論 医学書院 医療福祉をつなぐ関連職種連携 北島政樹総編集 南江堂			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題 20%			
回	授業内容と成果	方法		
1	現代医学の起源と医療・医療観の変遷について理解できる	講義・演習		
2	生活と健康をまもるわが国の医療のしくみが理解できる	講義・演習		
3	現代医療の現状と課題が理解できる	講義・演習		
4	保健・医療・福祉のあり方と世界規模の環境・人権問題について考えることができる	講義・演習		
5	多職種連携の必要性とチーム医療およびケアの理念が理解できる	講義		
6	医療福祉専門職に求められるものが理解できる	講義・演習		
7	多職種連携のかたちと各職種の役割が理解できる	演習・GW		
8	チームマネジメントにおける課題と対応が理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	社会保障と社会福祉	2 (30)		
科目のねらい	看護に必要な社会資源を活用するために、生活者のくらしの実態と、生存権に根ざしたと社会保障・社会福祉制度について理解する。			
授業目標	1. 社会保障制度と社会福祉制度の具体的内容が理解できる。 2. 社会保障と社会福祉の動向と課題が理解できる。 3. 社会福祉と医療・看護との連携の意義と課題を考えることができる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	社会保障制度の概要が理解できる	講義		
2	社会福祉を支える法制度の概要が理解できる	講義		
3	社会や経済の変化と社会保障・社会福祉の動向が理解できる	講義		
4	医療保障制度の沿革と医療保障制度の特徴が理解できる	講義		
5	健康保険と国民健康保険について理解できる	講義		
6	後期高齢者医療制度、保険診療のしくみが理解できる	講義		
7	介護保険制度の歴史と介護保険制度の概要が理解できる	講義		
8	所得補償制度のしくみが理解できる	講義		
	年金保障制度について理解できる	講義		
9	労働保険制度、社会手当について理解できる	講義		
10	貧困・低所得問題と公的扶助制度について理解できる	講義		
	生活保護制度のしくみが理解できる	講義		
11	高齢者福祉の現状と課題が理解できる	講義		
12	障害者福祉の現状と課題が理解できる	講義		
13	児童家庭福祉の現状と課題が理解できる	講義		
14	社会福祉援助の条件・定義と援助方法が理解できる	講義		
15	社会福祉の実践と医療・看護との連携が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	関係法規 I	1 (15)		
科目のねらい	看護専門職者として対象の人権を護るために、人間は、法によって擁護されていることを理解し、法のしくみと看護師の責任、業務について理解する。			
授業目標	1. 法の基礎的知識が理解できる。 2. 人権に関わる基本的知識が理解できる。 3. 看護師の法的位置づけと責任が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	講師資料			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果			方法
1	法の概念や種類について理解できる			講義
2	日本国憲法における国民の権利と義務について理解できる			講義
3	人権保障の沿革が理解できる			講義
4	基本的人権：プライバシーの権利について理解できる			講義
5	基本的人権：自己決定権と尊厳死について理解できる			講義
6	保健師助産師看護師法について理解できる			講義
7	看護師の責任と法について理解できる（刑事責任・民事責任）			講義
8	医療技術の発達と人権について考えることができる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	関係法規Ⅱ	1 (15)		
科目のねらい	看護専門職者として業務を遂行するために必要な法規が理解できる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生法規に関する基本的な概念を説明できる。 2. 保健師助産師看護師法と医療法について説明できる。 3. 職務遂行に伴う法的責任について説明できる。 4. 個人情報保護と介護保険法について説明できる。 5. 看護専門職者として働く際に関係のある労働関係法規について説明できる。 6. 看護専門職者が協働する医療職者の業務が説明できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 看護関係法令 医学書院			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	保健師助産師看護師法の概要が理解できる	講義		
	看護師等の人材確保の促進に関する法律が理解できる	講義		
2	医療法および医療関係資格法の概要が理解できる	講義		
3	薬務法の各法律の概要が理解できる	講義		
4	保健衛生法の各法律の概要が理解できる	講義		
5	感染症に関する法の概要が理解できる	講義		
6	環境衛生法の概要が理解できる	講義		
7	環境法の概要が理解できる	講義		
8	労働基準法の概要が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	公衆衛生学	1 (15)		
科目のねらい	地域で生活するすべての人々の疾病予防と健康の保持増進のために、公衆衛生の理念に基づいた保健予防活動について理解する。			
授業目標	1. みんなの健康をみんなでまもることの重要性が理解できる。 2. 公衆衛生の理念、健康と生活や環境の関連性が理解できる。 3. 保健予防活動の実際が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	イラスト 公衆衛生学 東京教学者			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	公衆衛生の歴史と新たな公衆衛生の理念が理解できる 健康と人権について理解できる	講義 講義		
2	公衆衛生の活動対象と公衆衛生のしくみが理解できる	講義		
3	集団の健康状態をとらえるための指標の必要性とさまざまな健康指標が理解できる	講義		
4	地球規模の環境問題、身の回りの環境問題とその対策、健康への影響が理解できる 日本の環境行政の概要が理解できる	講義 講義		
5	わが国の感染症予防体制の概要が理解できる 公衆衛生上の重要な感染症とその対策が理解できる	講義 講義		
6	母子保健活動理念のとしくみが理解できる 精神保健の活動理念としくみが理解できる	講義 講義		
7	学校保健のしくみと展開の実際が理解できる 産業保健のしくみと産業保健活動の展開が理解できる	講義 講義		
8	健康危機管理と災害に対する公衆衛生活動が理解できる	講義		

專門分野

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	基礎看護学概論	1 (30)	16年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	はじめて看護を学ぶ学生として、看護が人間の健康や環境、生活に関わっていることを理解し、看護とは何かを追求し続けるための基本的な考え方を身につける。また、看護を支える主要な考え方、看護実践に関する法律や制度を理解し、看護が果たす役割を理解する。			
授業目標	1. 看護の主要な理論を通して、人間・健康・環境・看護とは何かが理解できる 2. 看護の主要概念を踏まえ、看護の対象を身体的、心理的、社会的、霊的側面から理解できる 3. 看護の歴史の変遷を理解し、看護の役割と機能が理解できる 4. 看護実践に関する法律や制度から望ましい行動を考えることができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	専門分野 看護学概論 医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 照林社			
評価方法	記述試験80%、レポート20%			
回	授業内容と成果			方法
1	看護師は何をする職業なのかを考えることができる			講義・演習
2	看護の歴史の変遷から、看護の本質とは何かを考えることができる			講義・演習
3	看護の主要な理論家の看護学のメタパラダイムが理解できる			講義・演習
4	看護の役割と機能が理解できる			講義
5	看護の継続性と多職種チームの連携について理解できる			講義・演習・ポストテスト
6	人間の「こころ」と「からだ」について理解できる			講義・演習
7	生涯発達し続けるに存在としての人間が理解できる			講義
	生活を営む人間としての「暮らし」が理解できる			講義・演習
8	健康とは何か、障害とは何かが理解できる			講義・演習
9	国民のライフサイクルにおける健康状態と生活の現状が理解できる			講義・演習
10	職業としての看護の歴史から、看護職の資格法の概要が理解できる			講義・演習・ポストテスト
11	看護倫理と看護実践における倫理的課題への取り組みが理解できる			講義・演習
12	看護サービス提供の場と看護の概要が理解できる			講義
13	看護をめぐる制度と施策の概要が理解できる			講義・演習
14	看護サービス管理の概要が理解できる			講義・演習・ポストテスト
15	医療安全と医療の質保証のための看護が理解できる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	看護理論	1 (30)	10年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護実践の基盤となる看護理論の特徴を知ること、臨床現場での応用に結び付ける思考力を育む。事例を通じて、看護理論の活用方法を学ぶことで、看護過程展開の基盤とする。			
授業目標	1. 看護理論の活用の意義が理解できる 2. 看護理論の概要と実践への活用についてプレゼンテーションできる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護学テキストNice 看護理論 南江堂 看護がみえるVol. 4 看護過程の展開			
評価方法	記述試験40%、レポート30%、実技30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	看護学と看護理論の関係が理解できる	講義		
2	看護理論の歴史と動向が理解できる	講義・演習		
3	看護理論の種類と代表的な看護理論が理解できる	講義		
4	看護理論を実践に活かす意義が理解できる	講義・演習		
5	看護実践の基盤となる看護理論の特徴が理解できる	演習		
6	看護理論の活用方法が理解できる	演習		
7	看護理論の活用方法が理解できる	演習		
8	看護理論の活用方法が理解できる	演習		
9	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
10	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
11	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
12	看護理論の理解と実践への応用についてプレゼンテーションできる	演習		
13	ゴードンの機能的健康パターンの概要が理解できる	講義		
14	ゴードンの機能的健康パターンの概要が理解できる	講義		
15	ゴードンの機能的健康パターンの概要が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	基礎看護技術	1 (30)	15年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護実践の重要な基盤となるコミュニケーションの重要性と方法について理解し、より良いコミュニケーションの技術を身につける。また、看護の対象者、看護者自身を守るための感染予防と医療安全について理解することで、あらゆる看護援助を安全に実践するための基礎を身につける。			
授業目標	1. 対象者との効果的なコミュニケーション技術を身につけることができる 2. 医療施設における感染予防についての知識及び技術を身につけることができる 3. 医療安全に対する基本的な考え方と対策が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			

回	授業内容と成果	方法
1	1) コミュニケーションの意義と目的について述べるができる	講義
	2) コミュニケーションの構成要素と成立過程について説明できる	講義
2	関係構築のためのコミュニケーションの基本について説明できる	講義
3	傾聴の重要性と傾聴の方法について理解し、実施できる	演習
4	効果的なコミュニケーション技術の方法が理解し実施できる	演習
5	コミュニケーション障害がある人の特徴を踏まえた会話ができる	演習
6	コミュニケーション障害がある人の特徴を踏まえた対応ができる	演習
7	感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、感染防止の重要性について説明することができる	講義
8	標準予防策を正しく実施できる	演習
9	感染経路別予防策を適切に実施できる (必要な防護用具の選択・着脱)	演習
10	洗浄・消毒・滅菌の実際と感染性廃棄物の取扱い方法を知り、正しく実施できる	講義・演習
11	無菌操作が正しく実施できる	演習
12	1) 誤薬防止における安全確保の技術について述べるができる	講義・演習
	2) 患者誤薬防止における安全確保の技術について述べるができる	講義・演習
	3) 針刺し事故の防止・事故後の対応について説明できる	講義・演習
13	転倒・転落・外傷防止のリスクアセスメントと防止策を踏まえ安全な療養環境の整備が実施できる	演習
14	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告・対応について説明できる	講義
15	薬剤・放射線暴露防止策における医療従事者の安全確保対策や技術について説明できる	講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	日常生活援助技術 I	1 (45)	11年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護は生活している人間を対象として、その人の健康問題にアプローチするため、日常生活の援助は看護の重要な役割のひとつである。この科目では、日常生活を安楽に送るための環境調整技術、活動と休息援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術を学ぶ。看護ケアを行うにあたっては、対象者の状況をアセスメントし、対象者一人ひとりの状況にあった看護ケアを安全に行えるような方法を学ぶ。			
授業目標	1. 対象の療養環境を整える技術を身につけることができる 2. 対象の活動と休息を整える技術を身につけることができる 3. 対象の体位保持・苦痛の緩和・安楽確保の技術を身につけることができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol. 1 基礎看護技術 メディックメディア e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果	方法		
1	療養生活の環境を整える意義について理解できる	講義		
2	病室環境のアセスメントができる	講義・演習		
3	快適な療養環境の整備ができる	演習		
4	ベッドメイキングの方法が理解できる	講義・演習		
5	ベッドメイキングができる	演習		
6	臥床患者のリネン交換の方法が理解できる	講義・演習		
7	臥床患者のリネン交換ができる	演習		
8	事例に応じた療養環境の整備ができる	演習		
9	事例に応じた療養環境の整備ができる	演習		
10	姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる	講義		
11	様々な体位とその目的を理解し、体位変換の援助ができる	講義・演習		
12	様々な体位とその目的を理解し、体位変換の援助ができる	講義・演習		
13	体位保持の意義を理解し、安楽な体位保持の援助方法が理解できる	講義・演習		
14	歩行の基礎知識と歩行時の援助方法が理解できる	講義・演習		
15	車椅子・ストレッチャーについて理解し、安全な移乗・移送ができる	演習		
16	スライディングシート等の補助具を使った援助方法ができる	演習		
17	睡眠の基礎知識と睡眠障害のアセスメント方法が理解できる	講義		
18	睡眠に障害を持つ患者への具体的な援助方法が理解できる	講義		
19	罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響が理解できる	講義		
20	対象に応じた温罨法・冷罨法ができる	講義・演習		
21	安楽の促進・苦痛の緩和について理解できる	講義		
22	対象に応じた安楽の促進・苦痛の緩和ができる。	演習		
23	対象に応じた安楽の促進・苦痛の緩和ができる。	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	日常生活援助技術Ⅱ	1 (45)	19年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護は生活している人間を対象として、その人の健康問題にアプローチするため、日常生活の援助は看護の重要な役割のひとつである。日常生活の援助のうち、この科目では食事援助技術、排泄援助技術、清潔・衣生活援助技術を学ぶ。看護ケアを行うにあたっては、対象者の状況をアセスメントし、対象者一人ひとりの状況にあった看護ケアを安全に行えるような方法を学ぶ。			
授業目標	1. 看護の対象である人間にとって、より良い食事とは何かを学び、食事摂取に必要な援助方法を習得できる 2. 人間の排泄を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な排泄援助を習得できる 3. 皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する基礎知識を理解し、対象が健康な生活を送るための清潔・衣生活援助方法を習得できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえるvol. 2 臨床看護技術 メディックメディア e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果	方法		
1	食事と栄養の意義を知り、対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント方法が理解できる	講義		
2	事例を使った栄養状態・摂食能力のアセスメントができる	講義		
3	食事介助の具体的な方法が理解できる	講義・演習		
4	対象の状態に応じた食事介助ができる	演習		
5	経口的な栄養摂取が行いにくい対象者への、摂食・嚥下訓練について理解できる	講義演習		
6	排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法が理解できる	講義		
7	床上排泄・ポータブルトイレ・おむつ交換の援助法が理解できる	講義・演習		
8	対象の状態に応じた床上排泄・ポータブルトイレでの排泄援助が実施できる	演習		
9	対象の状態に応じたおむつ交換の方法が理解できる	講義・演習		
10	一次的導尿、持続的導尿について理解し、挿入方法および管理方法が理解できる	講義・演習		
11	モデルを用い、導尿及び膀胱留置カテーテルの挿入および管理ができる	演習		
12	便秘のアセスメントと便秘改善のケアを理解し、浣腸と摘便の援助方法が理解できる	講義		
13	モデルを用い、浣腸及び摘便ができる	演習		
14	皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する	講義		
15	清潔に関するアセスメントができ、援助選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識が理解できる	講義		
16	事例を使った清潔のアセスメントができ、対象に応じた清潔援助計画を立案できる	演習		
17	対象の状態に応じた全身清拭と寝衣交換ができる	講義・演習		
18	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換ができる	講義・演習		
19	対象の状態に応じた入浴・シャワー浴の介助ができる	講義・演習		
20	対象の状態に応じた洗髪ができる	講義・演習		
21	対象の状態に応じた手浴・足浴ができる	講義・演習		
22	対象の状態に応じた陰部の保清ができる	講義・演習		
23	対象の状態に応じた整容ができる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	ヘルスアセスメントⅠ	1 (30)	19年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護の対象である人間のヘルスアセスメント法について学ぶ。対象者に関する情報を意図的に収集し、正確に査定・判断することが、看護の質や方向性を決定することから、臨床判断能力や看護の基盤となる科目である。科目設定をヘルスアセスメントⅠ・ヘルスアセスメントⅡとし、ゴードンの機能的健康パターンのアセスメント枠組みを使って系統的かつ段階的に健康査定の方法を学習する。ヘルスアセスメントⅠでは、ヘルスアセスメント概論、バイタルサイン測定、身体計測、およびゴードンの健康パターンの3つのカテゴリーに沿ったフィジカルアセスメントについて学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントに必要なアセスメントの視点と技術を身につけることができる バイタルサインの観察とアセスメントができる ゴードンの機能的健康パターンに沿ったヘルスアセスメントができる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえるVol. 4 看護過程の展開 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果	方法		
1	ヘルスアセスメントの意義と目的を知り、ゴードンの機能的健康パターンの特徴が理解できる	講義		
2	アセスメントに関する看護師の倫理的・法的責任が理解できる	講義		
3	ヘルスアセスメントに必要な問診の技術を身につけることができる	講義・演習		
4	フィジカルアセスメントに必要な視診・打診・触診・聴診の技術を身につけることができる	講義・演習		
5	身体計測の目的と方法が理解できる	講義・演習		
6	バイタルサインの観察とアセスメントができる(体温・呼吸)	講義・演習		
7	バイタルサインの観察とアセスメントができる(脈拍・血圧)	講義・演習		
8	バイタルサインの観察とアセスメントができる(血圧)	講義・演習		
9	バイタルサインの観察とアセスメントができる(血圧)	講義・演習		
10	健康知覚・健康管理パターンのアセスメントができる	講義		
11	事例を使った健康知覚・健康管理パターンのアセスメントができる	演習		
12	栄養・代謝パターンのアセスメントができる	講義		
13	事例を通して栄養・代謝パターンのアセスメントができる	演習		
14	排泄パターンのアセスメントができる	講義		
15	事例を使った排泄パターンのアセスメントができる	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	ヘルスアセスメントⅡ	1 (30)	15年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護の対象である人間のヘルスアセスメント法について学ぶ。対象者に関する情報を意図的に収集し、正確に査定・判断することが、看護の質や方向性を決定することから、臨床判断能力や看護の基盤となる科目である。科目設定をヘルスアセスメントⅠ・ヘルスアセスメントⅡとし、ゴードンの機能的健康パターンのアセスメント枠組みを使って系統的かつ段階的に健康査定の方法を学習する。ヘルスアセスメントⅡでは、ゴードンの健康パターンの8つのカテゴリーに沿ったフィジカルアセスメントについて学ぶ。			
授業目標	1. ゴードンの機能的健康パターンに沿ったヘルスアセスメントができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえるVol. 4 看護過程の展開 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート10%、実技10%			
回	授業内容と成果	方法		
1	活動・運動パターンのアセスメントができる	講義		
2	睡眠・休息パターンのアセスメントができる	講義		
3	事例を使った活動・運動パターン及び睡眠・休息パターンのアセスメントができる	演習		
4	事例を使った活動・運動パターン及び睡眠・休息パターンのアセスメントができる	演習		
5	認知・知覚パターンのアセスメントができる	講義		
6	認知・知覚パターンのアセスメントができる	講義		
7	自己知覚・自己概念パターンのアセスメントができる	講義		
8	自己知覚・自己概念パターンのアセスメントができる	講義		
9	役割・関係パターンのアセスメントができる	講義		
10	役割・関係パターンのアセスメントができる	講義		
11	セクシュアリティ・生殖パターンのアセスメントができる	講義		
12	コーピング・ストレス耐性パターンのアセスメントができる	講義		
13	価値・信念パターンのアセスメントができる	講義		
14	事例を使った心理面のアセスメントができる	演習		
15	事例を使った社会面のアセスメントができる	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	健康障害を持つ患者の看護	1 (30)	20年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	臨床での主要な症状を示す対象者への看護を学ぶ。シミュレーション演習では、高機能シミュレーターを使用し、観察力や専門知識・技術の重要性を理解する。さらに、臨床判断する過程について学ぶ。			
授業目標	1. 主要な症状を示す対象者への看護が理解できる 2. 対象者の示す症状を専門的知識を活用し、臨床判断することができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 臨床看護総論 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験60%、レポート10%、実技30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	呼吸機能障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる	講義		
2	呼吸困難を訴える患者の情報を収集し、状態をアセスメントできる	シミュレーション演習		
3	呼吸障害のある対象者への援助が理解できる	シミュレーション演習		
4	循環障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる	講義		
5	胸痛を訴える患者の情報を収集し、状態をアセスメントできる	シミュレーション演習		
6	循環障害のある対象者への援助が理解できる	シミュレーション演習		
7	栄養障害・代謝障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる	講義		
8	腹痛を訴える患者の異変の徴候から、臨床判断できる	シミュレーション演習		
9	栄養障害・代謝障害のある対象者への援助が理解できる	シミュレーション演習		
10	排泄機能障害に関連する代表的な症状のアセスメント方法が理解できる	講義		
11	便秘を訴える患者のアセスメントができ、便秘症状改善への援助ができる	シミュレーション演習		
12	排泄障害のある対象者への援助が理解できる	シミュレーション演習		
13	コーピングに関連する症状を示す対象者への看護が理解できる	講義		
14	安全や生体防御に関連する症状を示す対象者への看護が理解できる	講義		
15	安楽に関連する症状を示す対象者への看護が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	臨床看護技術 I	1 (15)	14年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	対象が安全に診療を受けられるための診察時・検査時・処置の介助技術について学ぶ。対象者の身体的・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、根拠に基づいた確実な看護技術の提供を行うための技術を習得する。さらに、医療過誤防止の観点から、安全・確実な技術を理解し、倫理的・法的側面を含めた看護師の役割について理解する。			
授業目標	1. 診察における看護の役割を理解し、その援助方法を習得する 2. 検体検査時における看護の役割を理解し、その援助方法を習得する			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験90%、レポート10%			
回	授業内容と成果	方法		
1	診察における看護の役割を知り、診察の目的と援助方法について理解できる	講義		
2	検体検査における看護の役割を知り、検査の種類および目的が理解できる	講義		
3	尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護が理解できる	講義・演習		
4	血液検査の種類および目的を知り、採血時の看護が理解できる	講義		
5	静脈血採血の手順と留意点が理解できる	講義・演習		
6	モデル人形を使った静脈血採血ができる	演習		
7	モデル人形を使った静脈血採血ができる	演習		
8	事例に応じた診察・検査時の援助ができる	演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	臨床看護技術Ⅱ	1 (30)	19年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	疾病の予防、診断、治療において重要な与薬及び生体検査についての基礎的知識および実際について学ぶ。看護師には、医師に指示された薬剤を正しく与薬する責務があり、対象者の身体的・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、根拠に基づく確かな技術を習得する必要がある。さらに、医療過誤防止の観点から、安全・確実な技術を理解し、倫理的・法的側面を含めた看護師の役割について理解する。			
授業目標	1. 与薬における看護師の役割を理解し、安全で確実な与薬のための知識および技術を習得する 2. 生体検査の種類および特徴を理解し、安全な検査時の援助法が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験90%、レポート10%			
回	授業内容と成果			方法
1	1) 薬物の基本的性質が理解できる 2) 与薬における看護師の役割と法的役割が理解できる 3) 与薬における多職種との連携について理解できる			講義
2	経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)・吸入の基礎知識と安全で確実な投与方法が理解できる			講義
3	点眼・点鼻薬・経皮・外用薬・坐薬の基礎知識と安全で確実な投与方法が理解できる			講義・演習
4	注射法の種類と目的および特徴を知り、注射用器材の違いが理解できる			講義
5	安全で確実な注射のための実施上の留意点および準備方法が理解できる			講義・演習
6	モデルを用い、安全で確実に皮下注射・筋肉内注射が実施できる			演習
7	モデルを用い、安全で確実に皮下注射・筋肉内注射が実施できる			演習
8	1) モデルを使い、安全で確実に静脈路確保および点滴静脈内注射が実施できる 2) 点滴静脈内注射の管理ができる			演習
9	1) モデルを使い、安全で確実に静脈路確保および点滴静脈内注射が実施できる 2) 点滴静脈内注射の管理ができる			演習
10	輸液ポンプ・シリンジポンプの目的と使用及び管理方法が理解できる			講義・演習
11	輸血の管理および輸血時の看護が理解できる			講義
12	心電図モニターの装着および管理方法が理解できる			講義・演習
13	生体検査時の看護が理解できる(X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査)			講義
14	生体検査時の看護が理解できる(超音波検査、肺機能検査、核医学検査)			講義
15	穿刺の種類と穿刺時の援助が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	看護過程	1 (30)	21年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護を科学的根拠に基づいて実践できる方法論としての看護過程の展開方法を学ぶ。看護過程には、基盤となる看護理論や確かな看護技術や臨床判断能力が必要であり、看護師としての倫理的な判断と行動の重要性について学ぶ。また、看護実践の証となる看護記録は看護職の思考と行為を示すものであり、看護の継続性と一貫性の担保、評価および看護の質向上を目指すことの重要性を学ぶ。			
授業目標	1. 看護過程の展開方法が理解できる 2. 事例を使った看護過程の展開ができる 3. 看護記録の目的・法的意義および記載・管理方法について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえるVol. 4 看護過程の展開 看護診断ハンドブック 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験60%、レポート40%			
回	授業内容と成果			方法
1	看護過程の意義と構成要素が理解できる			講義
2	看護過程展開に必要な基礎的理論が理解できる			講義・演習
3	ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメントの枠組みが理解できる			講義・演習
4	NANDA-I 分類法と診断概念および主な看護診断概念が理解できる			講義
5	1) 看護記録の目的・法的意義が理解できる			講義
	2) 看護記録の構成と記載方法・管理方法が理解できる			講義
6	アセスメントの視点とアセスメント方法が理解できる			講義
7	事例のアセスメントができる			演習
8	全体像および看護問題明確化の考え方が理解できる			講義
9	事例の関連図および看護診断ができる			演習
10	看護計画の立案過程が理解できる			講義
11	事例の看護計画立案ができる			演習
12	実施及び評価の考え方が理解できる			講義
13	事例を使った実施および評価ができる			演習
14	事例を使った実施および評価ができる			演習
15	看護経過記録が記述できる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	基礎看護学実習 I	1 (45)	19年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	健康障害のある対象者の療養環境を知り、看護師としての役割と機能を理解することをねらいとする。また、看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から知り、その方法として対象理解のためのコミュニケーションについて学ぶ。			
実習目標	1. 対象を取り巻く環境と看護の役割と機能が理解できる 2. 受け持ち患者とのコミュニケーションを通して、患者の気持ちを理解できる 3. 受け持ち患者を身体的・精神的・社会的側面から知ることができる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
実習時間	臨地実習時間：36時間 実践外活動時間：9時間			
評価方法	実習目標到達度100%			
行動目標				
1-1. 対象の療養生活の環境を説明できる 1-2. 受け持ち患者の療養環境のアセスメントができる 1-3. 受け持ち患者が快適に入院生活を過ごせるように整えることができる 1-4. 看護場面を見学し、看護師の役割と機能について考えることができる 2-1. 親しみやすく、礼儀正しい態度で患者に接することができる 2-2. 受け持ち患者とのプロセスレコードを通して、行ったこと、感じたこと、考えたことを説明できる 2-3. プロセスレコードを活かしたコミュニケーションができる 3-1. 受け持ち患者の身体面・精神面・社会面の情報収集ができる 3-2. 受け持ち患者の全体像を記述できる				

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	基礎看護学実習Ⅱ	3 (90)	19年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	健康障害を持ち入院している対象者の看護過程の展開をし、科学的に看護を実践する能力の基礎を習得することをねらいとする。看護過程のプロセスで明確となった看護上の問題については、患者の状態に応じた援助方法を選択し、実施することを学ぶ。			
実習目標	1. 健康障害を持つ患者の看護過程の展開が実施できる 2. 健康障害を持つ患者の状態に応じた日常生活援助が実施できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
実習時間	臨地実習時間：72時間 実践外活動時間：18時間 予習・復習：45時間			
評価方法	実習目標到達度100%			
行動目標				
1-1. 対象の療養環境を理解する 1-2. 病棟で行われている看護の実際がわかる 1-3. 健康障害を持つ患者の情報を収集し、カテゴリ別に整理できる 1-4. 得た情報の解釈・分析ができる 1-5. 患者の看護問題を明確化（看護診断）できる 1-6. 患者の看護問題を解決するための目標・計画が立案できる 1-7. 看護計画に基づき、看護が実施できる 1-8. 看護過程の評価ができる 2-1. 患者の状態に合わせた日常生活援助が実施できる 2-2. 援助についてのリフレクションを行うことができる				

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	地域・在宅看護論概論	2 (30)	16年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	<p>看護の対象である人間は、周囲の環境から影響を受け、環境との相互作用の奏でたえず変化をしながら生活を営む存在である。よって、人々が暮らす地域という環境において、すべての対象者の生活と健康を支えることが看護の基本である。</p> <p>本科目のねらいは、人々が住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることを支える看護を提供するために、地域で生活する人々とその家族の暮らしと健康への影響、看護の基盤となる概念を理解する。</p>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の「暮らし」と暮らしが健康に与える影響を理解できる。 2. 地域・在宅看護の対象を理解できる。 3. 地域における暮らしと健康を支える看護を理解できる。 4. 地域・在宅における多様な看護実践の場を理解できる。 5. 地域・在宅看護にかかわる法と制度を理解できる。 			
DPとの関連性	<p>DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる</p> <p>DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる</p> <p>DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる</p> <p>DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる</p> <p>DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる</p>			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 I			
評価方法	記述試験60%、出席状況、授業態度、課題 40%			
回	授業内容と成果			方法
1	自身の生活から「暮らし」とは何かが理解できる 地域に暮らす人々の「暮らし」が理解できる			講義・演習
2	地域・在宅看護に求められる役割が理解できる			講義・演習
3	地域に暮らす人々の生活環境の特徴が理解できる (学校所在地域の生活環境の特性と健康の情報収集)			フィールドワーク
4				
5	地域の生活環境が健康に与える影響が理解できる 地域で暮らす人々の健康課題が理解できる			講義・演習
6	地域包括ケアシステムの意義と概要が理解できる			講義・演習
7	地域包括ケアシステムにおける看護の役割が理解できる			講義
8	地域・在宅看護の対象者の特徴が理解できる			演習
9	地域・在宅看護の対象者である家族の特徴が理解できる			講義・演習
10	地域における暮らしを支える看護が理解できる			講義・演習
11	地域・在宅において提供される多様な場における看護の特徴が理解できる			講義・演習
12	地域で暮らす人々の健康を支える多職種連携、協働の概要が理解できる			講義・演習
13	地域・在宅看護にかかわる法令・制度の変遷から、介護保険・医療保険制度が理解できる			演習
14	在宅看護における訪問看護制度の概要が理解できる			講義・演習
15	地域保健や対象者の権利を守る法制度の概要が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	地域・在宅看護技術	1 (30)	16年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	療養者の状態や介護者の状況に応じた看護を実践するために、在宅で求められる看護援助の特徴と方法を理解する。			
授業目標	1. 療養者と家族が生活することを支える看護技術の基本が理解できる。 2. 在宅で求められる看護技術の特徴と援助の方法が理解できる。 3. 原理原則を踏まえて工夫をしながら、日常生活援助が実施できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅱ eナーストレーナー			
評価方法	記述試験60%、出席状況、授業態度、演習課題、実技 40%			
回	授業内容と成果	方法		
1	地域・在宅看護の活動を支えるコミュニケーション技術の基本が理解できる	講義		
2	地域・在宅看護を展開する上での工夫点や観察のポイントが理解できる	講義		
3	呼吸に関するアセスメントの視点と援助のポイントが理解できる	講義・演習		
4	呼吸に関する援助のポイントを踏まえ実施できる	実技		
5	食生活・嚥下に関するアセスメントの視点と援助のポイントが理解できる	講義・演習		
6	食生活・嚥下に関する援助のポイントを踏まえ実施できる	実技		
7	排泄に関するアセスメントの視点と援助のポイントが理解できる	講義・演習		
8	排泄に関する援助のポイントを踏まえ実施できる	実技		
9	移動・移乗に関するアセスメントと援助のポイントが理解できる	講義・演習		
10	移動・移乗に関する援助のポイントを踏まえ実施できる	実技		
11	清潔に関するアセスメントと援助のポイントが理解できる	講義・演習		
12	清潔に関する援助のポイントを踏まえ実施できる	実技		
13	認知機能のアセスメントと援助の方法が理解できる	講義・演習		
14	地域・在宅におけるエンドオブライフケアの特徴と看護の実際が理解できる	講義・演習		
15	地域・在宅における看取りとグリーフケアの実際が理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	地域・在宅看護援助論 I	1 (30)	12年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	地域で暮らす人々とその家族の安心した生活の保障のために、生活支援の実際を理解する。			
授業目標	1. 地域で暮らす人の健康の保持増進・疾病予防のための看護が理解できる。 2. 療養上のリスクマネジメントのその実際が理解できる。 3. 地域で療養生活を送る人と家族の看護に必要なアセスメントが理解できる。 4. 地域で療養生活を送る人の健康レベルに応じた看護の継続性が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 II eナーストレーナー			
評価方法	記述試験60%、出席状況、授業態度、課題 40%			
回	授業内容と成果	方法		
1	地域で行われている健康保持増進・疾病予防の取り組みが理解できる	講義・演習		
2	地域で暮らす人の健康保持増進・疾病予防を支援する看護が理解できる (生活習慣病予防)	講義・演習		
3	地域で暮らす人の健康保持増進・疾病予防を支援する看護が理解できる (介護予防)	講義・演習		
4	地域で暮らす人のQOL維持向上を支援する看護が理解できる。	講義		
5	療養上のリスクマネジメントの特徴と環境の整備による安全の確保の方法が理解できる	講義		
6	薬物による事故防止、感染防止の方法と発生時の対応が理解できる	講義		
7	災害に対する準備と災害時の対応が理解できる	講義		
8	在宅看護介入時期別の特徴が理解できる (準備期・移行期・安定期)	講義		
9	在宅看護介入時期別の特徴が理解できる (増悪期・終末期・終了期)	講義・演習		
10	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入事例のアセスメントができる	講義		
11	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入事例の看護の実際が理解できる	講義・演習		
12	COPDで療養する療養者に対する在宅看護事例のアセスメントができる	講義		
13	COPD (急性増悪) で療養する療養者に対する在宅看護事例の看護の実際が理解できる	講義・演習		
14	人生の最終段階にある療養者に対する在宅看護事例のアセスメントができる	講義		
15	人生の最終段階にある療養者に対する在宅看護事例の看護の実際が理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1 (30)	40年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	暮らしの場で行われる医療処置と看護を安全に実施するために、その方法と留意点及び予測できるトラブルと対処法を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療処置が必要となった療養者とその家族の気持ちを理解できる。 2. 暮らしの場で安全に医療処置を行うためのサポートについて理解できる。 3. 医療処置に対して起こりうる危険とその要因と対処方法を理解できる。 4. 医療処置を必要とする療養者と家族への援助の方法が理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅱ eナーストレーナー			
評価方法	記述試験60%、出席状況、授業態度、演習課題 40%			
回	授業内容と成果	方法		
1	医療依存度が高い療養者へのケアが理解できる (褥瘡)	講義・演習		
2	医療依存度が高い療養者へのケアが理解できる (尿道留置カテーテル)	講義・演習		
3	医療依存度が高い療養者へのケアが理解できる (消化管ストーマ、尿路ストーマ)	講義・演習		
4	医療依存度が高い療養者へのケアが理解できる (経管栄養法)	講義・演習		
5	医療依存度が高い療養者へのケアが理解できる (在宅中心静脈栄養法)	講義・演習		
6	暮らしの場において医療管理を必要とする療養者と家族の特徴とケアの基本が理解できる	講義		
7	医療依存度が高い療養者へのケアが理解できる (在宅人工呼吸器)	講義		
8	在宅人工呼吸療法を受ける療養者とその家族への管理方法と病期に合わせた看護及び緊急時の関係職種との連携が理解できる (NPPV)	講義・演習		
9	在宅人工呼吸療法を受ける療養者とその家族への管理方法と病期に合わせた看護及び緊急時の関係職種との連携が理解できる (IPPV/TPPV)	講義・演習		
10	在宅酸素機器のしくみと日常生活の管理方法及び緊急時の連携が理解できる	講義・演習		
11	在宅酸素療法を受ける療養者とその家族への観察と援助の実際が理解できる	講義・演習		
12	連続携行式腹膜透析を受ける療養者への管理とケアが理解できる	講義・演習		
13	外来がん治療を受ける療養者への支援の方法が理解できる	講義・演習		
14	エンドオブライフケアが必要な療養者への支援の方法が理解できる	講義		
15	エンドオブライフケアが必要な療養者への支援の方法が理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	成人看護学概論	1 (30)	20年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	成人期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護を実践するために、成人期にある対象のと特徴や生活、健康問題とその予防について理解する。また、成人の健康のレベルに応じた看護の基本的な考え方を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の対象とその生活を理解できる。 2. 成人を取り巻く環境が健康に及ぼす影響を理解できる。 3. 成人の生活の中での健康行動支援と意思決定支援の方法を理解できる。 4. 成人の健康レベルに応じた看護が理解できる。 5. 成人の健康生活を促すための看護技術が理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 成人看護学総論			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題 20%			

回	授業内容と成果	方法
1	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解できる	講義
2	働くこと、生活を営むことの意味を考え、社会の担い手としての大人の生活が理解できる	講義
3	成人を取り巻く多様な環境や社会生活の状況が健康へ及ぼす影響を説明できる	講義・GW
4	成人の健康の維持・増進を目指した保険・医療・福祉にかかわる施策の概要が説明できる	講義
5	大人の健康行動と自己の健康行動を比較して考えることができる 行動変容を促進する看護アプローチの方法が理解できる	演習
6	集団における健康づくりの重要性と集団アプローチの基本が理解できる 生活や人生に影響を及ぼす意思決定支援と看護師の役割が理解できる	講義・GW
7	個人の主体的な健康づくりのための支援が説明できる 地域社会、職場におけるヘルスプロモーションを促進するための支援の方法が理解できる	講義・GW 講義・GW
8	健康バランスに影響を及ぼす要因が理解できる 成人の生活行動からみた問題とその対策について理解できる	講義
9	急性期にある成人の特徴と回復へ向けた支援の方法が理解できる	講義・GW
10	慢性状況にある成人の特徴と病気と共に共存していくための支援の方法が理解できる	講義・GW
11	成人期の対象が障害を持つことの影響について理解できる 障害がある成人期の対象の生活とリハビリテーションを支援する看護の特徴が説明できる	講義・GW
12	人生の最期のときを過ごしている成人の特徴とそれを支える看護師の役割が理解できる	講義・GW
13	エンパワーメント・エデュケーションの方法とセルフマネジメントを推進する看護技術が理解できる	演習
14	患者の症状体験を理解し、症状マネジメントモデルを使用した看護のアプローチの方法が理解できる	演習
15	療養の場を移行する人が体験する困難さを理解し、基本的な退院支援の方法が理解できる	演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	成人看護援助論 I	1 (30)	25年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	呼吸器系および循環器系の機能障害をもつ成人期の患者への看護を実践するために、症状や治療に伴う看護を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器症状に対するアセスメントと看護が理解できる。 2. 呼吸器系の検査・処置・治療を受ける患者の看護が理解できる。 3. 呼吸器系に障害がある患者の看護が理解できる。 4. 循環器症状に対するアセスメントと看護が理解できる。 5. 循環器系の検査・処置・治療を受ける患者の看護が理解できる。 6. 循環器系に障害がある患者の看護が理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学3 循環器 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、演習課題 30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	慢性閉塞性肺疾患の患者の経過と病期別の看護が理解できる	講義		
2	呼吸器系の症状のある患者のアセスメントと看護活動が理解できる	講義		
3	内視鏡検査を及び肺組織生検を受ける患者の看護が理解できる	講義		
	吸入療法、酸素療法を受ける患者の看護が理解できる	講義・演習		
4	人工呼吸器の基本構造と患者のアセスメントの視点が理解できる	講義・演習		
5	人工呼吸器装着中の患者の看護が理解できる	デモンストレーション		
6	肺がん患者のアセスメントと看護が理解できる	GW		
7	肺がん患者のアセスメントと看護が理解できる	演習・GW		
8	肺炎・胸膜炎の患者のアセスメントと看護援助が理解できる	演習・GW		
	胸腔ドレナージを受ける患者の看護が理解できる	演習・GW		
9	循環器疾患をもつ患者の経過と病期別の看護が理解できる	講義		
10	循環器症状をもつ患者のアセスメントと看護活動のポイントが理解できる	演習・GW		
11	循環器の検査、治療を受ける患者の看護が理解できる	講義		
12	虚血性心疾患をもつ患者のアセスメントと看護が理解できる	GW		
13	不整脈の患者のアセスメントと看護が理解できる	GW		
14	弁膜症をもつ患者のアセスメントと看護が理解できる	GW		
15	心不全をもつ患者のアセスメントと看護が理解できる	GW		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	成人看護援助論Ⅱ	1 (30)	23年	看護師として病院に勤務
			16年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	1. 消化器系、内分泌代謝系の機能障害をもつ成人期の患者への看護を実践するために、症状や治療に伴う看護を理解する。			
授業目標	1. 消化器症状に対するアセスメントと看護が理解できる。 2. 消化器系の検査・処置・治療を受ける患者の看護が理解できる。 3. 消化器系に障害がある患者の看護が理解できる。 4. 内分泌代謝系の症状に対するアセスメントと看護が理解できる。 5. 内分泌代謝系の検査・処置・治療を受ける患者の看護が理解できる。 6. 内分泌代謝系に障害がある患者の看護が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 成人看護学 ⑤消化器 ⑥内分泌・代謝 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、課題 30%			

回	授業内容と成果	方法
1	消化器疾患をもつ患者の経過と病期別の看護が理解できる	講義
2	消化器疾患が原因となって現れる症状のアセスメントと看護活動が理解できる (嚥下困難、腹痛、吐血・下血、下痢)	講義・GW
3	消化器疾患が原因となって現れる症状のアセスメントと看護活動が理解できる (腹部膨満、黄疸、意識障害)	講義・GW
4	消化器検査を受ける患者の看護が理解できる (超音波、内視鏡、肝生検、造影)	講義
5	消化器系の治療を受ける患者の看護が理解できる (化学療法、放射線療法)	講義
6	食道がん、胃がん患者のアセスメントが理解できる	講義・GW
7	食道がん、胃がん患者の看護援助が理解できる	GW
8	肝硬変、胆石患者のアセスメントが理解できる	講義・GW
9	肝硬変、胆石患者の看護援助が理解できる	GW
10	内分泌・代謝疾患をもつ患者の経過と病期別の看護が理解できる 内分泌疾患の検査を受ける患者の看護が理解できる	講義・GW GW
11	甲状腺疾患患者のアセスメントとが理解できる	講義・GW
12	甲状腺疾患患者の看護が理解できる	GW
13	糖尿病患者の身体的、心理・社会的特徴とアセスメントの視点が理解できる	講義・GW
14	糖尿病患者の病期や状態に応じた看護が理解できる	GW
15	糖尿病患者の合併症予防のための看護援助が理解できる 簡易血糖測定を安全に実施することができる	講義・GW 実技

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	成人看護援助論Ⅲ	1 (30)	22年	看護師として病院に勤務
			18年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	アレルギー・膠原病・感染症及び血液・造血器系、腎泌尿器系、生殖器系の機能障害をもつ成人期の患者への看護を実践するために、症状や治療に伴う看護を理解する。			
授業目標	1. 各症状に対するアセスメントと看護が理解できる。 2. 各検査・処置・治療を受ける患者の看護が理解できる。 3. 各器官系統に障害がある患者の看護が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 成人看護学 ④血液・造血器 ⑧腎・泌尿器 ⑨女性生殖器 ⑩アレルギー・膠原病・感染症 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、演習課題 30%			
回	授業内容と成果			方法
1	アレルギー症状のアセスメントと看護活動のポイントが理解できる			講義・GW
	アレルギー検査及び治療を受ける患者の看護が理解できる			
2	アレルギー疾患の病期に合わせた看護が理解できる (鼻炎・花粉症、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー、食物・薬物)			講義・GW
3	膠原病をもつ患者の経過と病期別の看護が理解できる			講義
4	膠原病に特徴的な症状のアセスメントと看護が理解できる			講義・GW
	膠原病で薬物治療を受ける患者の看護が理解できる			
5	関節リウマチ患者のアセスメントと看護が理解できる			講義・GW
	全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群患者のアセスメントと看護が理解できる			
6	感染症によるアウトブレイクへの対応とサーベイランスの方法が理解できる			講義・GW
	予防接種とワクチン、検体採取時の看護について理解できる			
7	感染症をもつ患者の病期に応じた看護が理解できる (HIV感染症・エイズ、新型コロナウイルス感染症)			講義
8	血液・造血器疾患をもつ患者の経過と病期別の看護のポイントが理解できる			講義・GW
	血液・造血器疾患に特徴的な症状のアセスメントと看護が理解できる			講義・演習
9	造血器腫瘍患者のがん薬物療法に伴う看護が理解できる			講義・演習
10	造血幹細胞移植を受ける患者の看護が理解できる			講義・演習
11	乳がん患者のアセスメントと治療に伴う看護が理解できる			
12	慢性腎不全をもつ患者の病期別の看護のポイントが理解できる			講義・演習
	腎泌尿器系の検査を受ける患者のアセスメントと看護が理解できる			
13	透析治療を受ける患者の治療時期に合わせた看護が理解できる			講義
14	膀胱、前立腺の手術を受ける患者の看護が理解できる			講義
15	外性器・内性器の手術を受ける患者のアセスメントと看護が理解できる			講義・演習



配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	成人看護援助論Ⅳ	1 (30)	20年	看護師として病院に勤務
			18年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	対象の健康状態に即した患者理解と患者の状態に合わせた看護が理解できる。また、看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス(判断能力、応用能力、問題解決能力)を身につける。			
授業目標	1. 周手術期における人の特徴と看護の役割が理解できる。 2. 手術・麻酔による生体反応・合併症の発症と予防について理解できる。 3. クリティカルケアを受ける患者の特徴と看護の役割が理解できる。 4. がん患者の特徴をとらえ、がんとの共存のための看護が理解できる。 5. 終末期にある患者の全人的苦痛をとらえ、その人らしく生きることを支える看護が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学、緩和ケア e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、実技、演習課題 40%			

回	授業内容と成果	方法
1	手術を受ける患者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる 手術前の看護援助の実際が理解できる	講義 講義・演習
2	手術室看護師の役割と手術中の看護援助の実際が理解できる 手術室の安全管理について理解できる	講義・演習 講義・演習
3	手術侵襲と生体反応、観察の視点について理解できる 手術後の看護援助の実際が理解できる(疼痛管理、創傷管理、ドレーン管理)	講義・演習 講義・演習
4	術後合併症予防のための看護が理解できる	講義・演習
5	手術後の機能障害や生活制限への看護が理解できる 在宅療養者への支援と在宅療養における支援者・地域との連携が理解できる	講義 講義・演習
6	集中治療・看護の概念と役割が理解できる	講義
7	集中治療を受ける患者・家族の特徴と看護の実際が理解できる	講義・演習
8	手指消毒、個人防護具の装着、術中・術後の体位管理ができる	実技
9	がん患者が抱える身体的、心理的、社会的、霊的苦痛が理解できる がんサバイバーの体験を聴き、がん患者の生活上の困難さが理解できる	GW GW
10	がん患者の治療に伴う看護が理解できる(手術療法、化学療法)	講義
11	がん患者の治療に伴う看護が理解できる(放射線療法、集学的治療) がん患者が病気と共存し、社会参加への支援の実際が理解できる	講義 講義
12	緩和ケアを必要とする患者・家族の特徴が理解できる アドバンスケアプランニングの実際について理解できる	GW GW
13	終末期にある人の全人的苦痛のアセスメントとマネジメントが理解できる	GW
14	主要な身体症状のマネジメントとケアが理解できる(疼痛、倦怠感、呼吸困難)	GW
15	臨死期の身体的、精神的、家族の悲嘆へのケアの方法が理解できる 脳死状態への対応について理解できる	GW 講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	成人臨床看護技術	1 (30)	20年	看護師として病院に勤務
			11年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	治療、処置を受ける対象の状態に合わせた看護を実践するために、安全・安楽・自立、および対象への配慮を踏まえた援助技術を身につける。			
授業目標	1. 援助技術を実施するにあたっての基本的知識が理解できる。 2. 援助の基本的知識を踏まえ、援助技術の実際が理解できる。 3. 原理原則に基づいて、安全に援助技術を実施できる。 4. 実施した援助技術を評価し、自己の学習課題を明確にできる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験50%、出席状況、授業態度、実技 50%			
回	授業内容と成果			方法
1	呼吸・循環を整える看護技術を安全に実施できる（酸素吸入、ネブライザーを用いた気管内加湿）			講義・実技
2	呼吸・循環を整える看護技術を安全に実施できる（口鼻腔内・気管内吸引、体位ドレナージ）			講義・実技
3	看護のための学習支援技術の方法が理解できる			講義・演習
4	事例を用いて患者指導の展開ができる（食事指導）			演習・実技
5	事例を用いて患者指導の展開ができる（食事指導）			実技
6	生活を整える援助技術を安全・安楽に実施できる（点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、自動・他動運動の援助）			実技
7	創傷管理技術を安全に実施することができる（創傷処置、ドレーン類挿入部の処置）			実技
8	創傷管理技術を安全に実施することができる（創傷処置、ドレーン類挿入部の処置）			実技
9	救命救急処置の方法が理解できる（緊急時の応援要請、BLS）			講義、実技
10	救命救急処置を安全に実施できる（緊急時の応援要請、BLS）			実技
11	救命救急処置を安全に実施できる（止血法）			講義・実技
12	酸素ボンベの操作・管理の方法を理解し、安全な取り扱いができる			講義・実技
13	酸素ボンベの操作・管理の方法を理解し、安全な取り扱いができる			実技
14	人工呼吸器の操作・管理の方法を理解し、安全な取り扱いができる			講義・実技
15	人工呼吸器の安全な取り扱いができる			実技

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	老年看護学概論	1 (30)	14年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	老年期を生きる高齢者とその家族への看護を実践するために、老年看護の基本的考え方を理解する。また、高齢者にかかわる保健医療福祉制度について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いを生きることの意味と価値について多角的にとらえることができる。 2. 老年期の特徴と健康問題を理解できる。 2. 高齢者のケアにおける看護の役割が理解できる。 3. 介護保険制度と地域包括ケアシステムが理解できる。 4. 高齢者の人権擁護と倫理的課題について理解ができる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 老年看護学、老年看護 病態・疾病論			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、課題 30%			

回	学習内容と成果	方法
1	老いを生きる高齢者について考えることができる	講義
2	老いを生きる高齢者の発達課題が理解できる	講義
3	高齢者疑似体験を通して、高齢者の身体的変化と気持ちを考えることができる	体験演習
4	加齢変化による身体面の不自由さ、生活への影響について理解できる	体験演習
5	超高齢社会の統計的輪郭から、日本の超高齢社会の現状と問題点が理解できる	講義
6	高齢者の保健医療福祉システムの変遷から、地域包括ケアシステムの構築への取り組みの実際が理解できる	講義
	介護保険制度の概要について理解できる	講義・GW
7	高齢者医療のしくみが理解できる	講義・GW
	高齢者を支える多職種連携と看護活動の実際が理解できる	講義・GW
8	高齢者の権利擁護について理解できる	講義
9	高齢者の権利擁護の課題について理解できる	講義・GW
	身体拘束ゼロにするための対策を考えることができる	GW
10	老年看護の特徴と老年看護の役割が理解できる	講義
11	老年看護に活用する理論・概念について理解できる	講義
12	高齢者のヘルスアセスメントの基本が理解できる	講義
	身体に加齢変化のアセスメントの方法が理解できる (皮膚とその付属器、視聴覚とそのほかの感覚)	GW
13	身体に加齢変化のアセスメントの方法が理解できる (呼吸器系・循環器系)	GW
14	身体に加齢変化のアセスメントの方法が理解できる (消化器系、ホルモン分泌、泌尿生殖器)	GW
15	身体に加齢変化のアセスメントの方法が理解できる (運動器)	GW
	事例を通して、もてる力を引き出すための運動のアセスメントに視点が理解できる	講義・GW

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	老年看護援助論 I	1 (30)	11年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	高齢者の主要な疾患である脳神経系および運動器系の健康障害と治療、検査における看護を実践するために、疾患と高齢者の特徴に合わせたアセスメントと看護援助の方法を理解する。			
授業目標	1. 高齢者の脳神経系および運動器系の機能障害をアセスメントし、経過別、症状別、治療・処置別、疾患別の看護が理解できる。 2. 治療を必要とする高齢者の特徴と看護が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 老年看護学、老年看護病態・疾病論、成人看護学 脳神経、運動器			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、課題 30%			
回	学習内容と成果	方法		
1	認知症高齢者の疾患の特徴とアセスメントの視点が理解できる	講義		
2	認知症高齢者への看護の原則にそった、看護援助が理解できる	講義・GW		
3	認知症高齢者と家族へのサポートシステムが理解できる	講義・GW		
	認知症予防への援助が理解できる	講義・GW		
4	脳血管障害をもつ高齢者の疾患の特徴と病期別の看護の要点が理解できる	講義		
	脳梗塞のある高齢者の疾患の特徴と病期別アセスメント視点が理解できる	講義		
5	脳梗塞のある高齢者の病期別看護が理解できる	講義・GW		
6	せん妄のある高齢者のアセスメントと看護が理解できる	講義・GW		
7	運動器疾患（骨折）をもつ患者の経過と看護の要点が理解できる	講義		
	骨粗鬆症と骨折の特徴とアセスメントの視点が理解できる	講義		
8	骨折の治療と回復経過に応じた看護が理解できる	講義・GW		
9	運動器疾患患者の援助を行うための身体的な援助技術と考え方が理解できる	講義		
10	検査を受ける高齢者の特徴と援助が理解できる	講義		
11	加齢に伴う薬物動態の変化と高齢者に特徴的な薬物有害事象について理解できる	講義・GW		
12	薬物療法における援助が理解できる	講義・GW		
13	手術を受ける高齢者の特徴と術前・術後のマネジメントについて理解できる	講義		
14	リハビリテーションを受ける高齢者の特徴と看護が理解できる	講義		
15	入院に伴う環境の変化と高齢者への影響が理解できる	講義		
	入院中および退院調整・退院支援について理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	老年看護援助論Ⅱ	1 (30)	14年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	高齢者が自身が望む場での生活を支えるために、生活・療養の場における高齢者と家族の特徴と必要な看護を理解する。また、健康障害を持つ高齢者の状態に合わせた看護を実践するために、高齢者とその家族を理解し、健康維持・健康回復に向けた看護過程展開方法を身につける。			
授業目標	1. 高齢者の生活の場、療養の場の特徴が理解できる。 2. 高齢者の生活の場、療養の場における看護の実践が理解できる。 3. 事例を通して、高齢者の特徴と患者の状態に応じた看護過程を展開ができる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座、老年看護学、老年看護病態・疾患論、成人看護学 循環器 e ナーストレーナー			
評価方法	記述試験50%、出席状況、授業態度、演習 50%			
回	学習内容と成果			方法
1	高齢者の生活の場で行われる介護予防とヘルスプロモーション事業が理解できる			講義
2	実際の生活の場における介護予防プログラムを調べ、まとめることができる			演習
3	保健医療福祉施設および住居施設における看護の実践が理解できる			講義
4	治療・介護を必要とする高齢者家族の生活と健康の現状が理解できる			講義
5	治療・介護を必要とする高齢者家族への援助が理解できる			講義・演習
6	高齢者のリスクマネジメントについて理解できる			演習
7	高齢者のエンドオブライフケアについて理解できる			演習
	【心不全のある高齢者の看護過程】			
8	高齢者の発達段階、発達課題を説明できる			演習
	アセスメントができる			演習
9	アセスメントができる			演習
10	関連図、看護問題が抽出できる			演習
11	看護問題に対して看護計画を立案できる			演習
12	看護問題に対して看護計画を立案できる			演習
13	看護計画に基づいて必要な援助を実施しできる			演習
14	看護計画に基づいて実施した援助の評価、記録ができる			演習
15	高齢者の看護過程展開のプロセスから学んだことを全体共有し、今後の課題を明確にできる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	老年臨床看護技術	1 (30)	15年	看護師として病院に勤務
			26年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	治療、処置を受ける対象の状態に合わせた看護を実践するために、安全・安楽・自立、および対象への配慮を踏まえた援助技術を身につけることができる。			
授業目標	1. 援助技術を実施するにあたっての基本的知識が理解できる。 2. 援助の基本的知識を踏まえ、援助技術の実際が理解できる。 3. 原理原則に基づいて、安全に援助技術を実施できる。 4. 実施した援助技術を評価し、自己の学習課題を明確にできる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 老年看護学、基礎看護技術Ⅱ、e ナーストレーナー			
評価方法	記述試験50%、出席状況、授業態度、実技 50%			
回	学習内容と成果			方法
1	高齢者の食事・食生活における特徴的な変調が理解できる			講義・GW
2	高齢者の食事環境と摂食嚥下能力、栄養状態のアセスメントが理解できる			講義・GW
3	高齢者の状態に応じた食生活の支援が理解できる			講義・GW
4	誤嚥性肺炎予防するための援助の基本と口腔ケアが実施できる			実技
5	経管栄養法の基本を理解し、援助を実施できる（胃管挿入、栄養物注入）			実技
6	経管栄養法の基本を理解し、援助を実施できる（胃管挿入、栄養物注入）			実技
7	高齢者の排泄のアセスメントとケアについて理解できる			講義・GW
8	高齢者の排泄機能に応じたケアが実施できる			実技
9	スキンケアの基本を理解し、実施できる			実技
10	ストーマに関する基本的知識をが理解できる			講義・GW
11	ストーマケアの方法を理解し、実施できる			実技
12	ストーマケアの方法を理解し、実施できる			実技
13	褥瘡発生の機序とアセスメント、援助方法が理解できる			講義・GW
14	高齢者への褥瘡予防の援助が実施できる			実技
15	高齢者への褥瘡ケアの援助が実施できる			実技

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	小児看護学概論	30	21年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	<p>少子高齢者を迎えて、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化している昨今であるが、子どもを取り巻く環境として現代の家族や社会の状況を知る意義は大きい。そのためこの科目では、小児看護の役割と特徴、ならびに子どもと家族を尊重した態度について学習する。また子どもの成長・発達の特徴についても学習し、多様な場で生活する子どもと家族の健康な生活への支援についてグループでの意見交換を交えて自らの学びを深めていく。日々変化する社会の中で、子どもを取り巻く問題から発達段階に応じた援助や子どもと家族に対する看護の役割を考え、小児看護における基盤の充実が図れることを期待する。</p>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の役割と特徴、子どもの権利について説明できる 2. 子どもの成長・発達の特徴を述べることができる 3. 基本的生活習慣の獲得過程と子どもと家族へのかかわり方について説明できる 4. 子どもの栄養と食生活について論じることができる 5. 子どもの健康増進に向けた社会制度について説明できる 			
DPとの関連性	<p>DP1.看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2.人々と良い人間関係を築くことができる DP4.看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5.看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6.自ら学び続ける力を身につけることができる</p>			
テキスト等	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院2021 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 小児看護学各論 小児看護学② 医学書院2021 eナーストレーナー 医学書院</p>			
評価方法	記述試験40%、事前課題30%、確認テスト20%、学習への取り組み10%			
授業計画 (授業内容と成果)				方法
1	小児看護の特徴と理念について説明ができる			講義 GW
2	小児と家族の概況及び小児看護の変遷を踏まえ、子どもに及ぼす影響について述べることができる			講義 GW
3	子どもの権利を踏まえ、小児看護を行う上での倫理について話し合うことができる			講義 GW
4	1～4回目の知識が確認できる 小児看護師の役割と目指すものについて検討することができる			演習
5	子どもについて話し合い、イメージが図れる			講義 GW
6	子どもの成長・発達についてグループ内で発表できる (乳児期)			講義 GW
7	子どもの成長・発達についてグループ内で発表できる (幼児期)			講義 GW
8	子どもの成長・発達についてグループ内で発表できる (学童期、思春期)			講義 GW
9	子どもの成長・発達に応じたかかわりを実施することができる			演習
10	各発達段階における栄養・食生活に関する問題について話し合うことができる			講義 GW
11	5～10回目の知識が確認できる 小児看護師の役割と目指すものについて検討することができる			演習
12	子どもを取り巻く家族の特徴とその看護について話し合うことができる			講義 GW
13	子どもと家族の健康に関する法律について発表できる(児童福祉、母子保健、医療費、予防接種)			講義 GW
14	子どもと家族の健康に関する法律について発表できる(学校保健、食育、特別支援教育、臓器移植)			講義 GW
15	12～14回目の知識が確認できる 地域の子どものとその家族のより良い暮らしを支える政策や社会制度の在り方について検討することができる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	小児看護援助論 I	15	21年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	病気や障害を持つにいたった子どもと家族はどのような体験を重ねているのだろうか。子どもと家族の不安や戸惑いは計り知れないのではないだろうか。この科目では、子どもの特徴的な症状、疾病の病態生理を含め、検査・治療及び看護について学習する。また現代社会の小児の事故や外傷の特徴を知り、看護の側面から小児医療の課題について検討していく。この授業を通して治療や療養上の体験を共有し、その体験が子どもや家族の価値や意向とつながる感覚が持てるように支えることの大切さに気づく、看護の創造力に期待したい。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児特有の疾患における病態基礎的臨床医学知識と関連づけて子どもの健康状態を保持・促進するための健康管理や健康問題に対する看護について述べ合うことができる 2. 現代社会の小児の事故や外傷の特徴を知り、看護の側面から小児医療の課題について論じることができる 3. 互いに学びを述べ合うことで、自己の学びを振り返り自己の課題を見出すことができる 			
DPとの関連性	DP1.看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP4.看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5.看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる DP6.自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院2021 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 小児看護学各論 小児看護学② 医学書院2021 eナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験40%、事前課題30%、確認テスト20%、学習への取り組み10%			
授業計画(授業内容と成果)				方法
1	小児特有の疾患をもつ子どもとその家族の看護について説明することができる (神経・筋疾患、精神疾患)			講義・演習
2	小児特有の疾患をもつ子どもとその家族の看護について説明することができる (遺伝性疾患、染色体異常、代謝疾患、内分泌疾患)			講義・演習
3	小児特有の疾患をもつ子どもとその家族の看護について説明することができる (感染症、アレルギー疾患、呼吸器疾患)			講義・演習
4	小児特有の疾患をもつ子どもとその家族の看護について説明することができる (免疫疾患、膠原病)			講義・演習
5	小児特有の疾患をもつ子どもとその家族の看護について説明することができる (循環器疾患)			講義・演習
6	小児特有の疾患をもつ子どもとその家族の看護について説明することができる (血液疾患、悪性腫瘍)			講義・演習
7	小児の事故や外傷の特徴を知り、事故や外傷の予防や看護について具体的に述べる ことができる (事故・外傷)			講義・演習
8	小児特有の疾患をもつ子どもと家族への看護を実施することができる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	小児看護援助論Ⅱ	1単位(30)	21年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	この科目では、子どもの成長・発達の過程及び基本的特性をおさえながら状況別に健康障害をもつ子どもと家族への看護を学習する。また子どもの健康障害が子どものQOLに及ぼす影響についても学習を深める。更に学習した内容を踏まえ、紙上事例にて看護過程を展開し、子どもの成長・発達過程を踏まえた健康の維持・増進、回復及び疾病予防のための生活援助に必要な情報を得る力を深め、症状や状況に応じた実践力を培う。これらの学習過程から1人でも多くの子どもたちが社会の中でその子らしく生活できることや家族が家族としていられるかかわりを多角的に考え、実践できる機会であってほしい。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの疾病の経過及びさまざまな状況に応じた看護について話し合うことができる 2. 事例展開を通して健康上の問題を持つ子どもとその家族を総合的に理解し、子どもと家族に必要な看護について述べ合うことができる 3. 小児看護学の既習の知識・技術・経験を基盤として子どもと家族への看護援助の一部を実施できる 4. リフレクションを踏まえ、再実践を行うことで自らの課題を解消し、健康回復を目指した看護を探求することができる 			
DPとの関連性	DP1.看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2.人々と良い人間関係を築くことができる DP3.科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4.看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP6.自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院2021 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 小児看護学各論 小児看護学② 医学書院2021 eナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験40%、事前課題30%、確認テスト20%、学習への取り組み10%			
授業計画(授業内容と成果)				方法
1	病気・障害をもつ子どもと家族への看護について述べるができる			講義・GW
2	さまざまな子どもの状況に特徴づけられる看護について考え、話し合うことができる(入院中、外来)			演習
3	さまざまな子どもの状況に特徴づけられる看護について考え、話し合うことができる(在宅療養中、災害時)			演習
4	子どもの疾病の経過と家族への看護について述べるができる			講義・GW
5	子どもの疾病の経過と家族への看護について考え、話し合うことができる(急性期、周手術期)			演習
6	子どもの疾病の経過と家族への看護について考え、話し合うことができる(慢性期、終末期、)			演習
7	入院中の子どもの疾病の経過と家族への看護を実践することができる			演習
8	子どものアセスメントがわかる			演習
9	検査・処置を受ける子どもと家族への看護を考え、話し合うことができる			演習
10	障害のある子どもと家族への看護について考え、話し合うことができる			講義・GW
11	紙上事例を通して子どもの健康障害と入院が成長・発達、生活に及ぼす影響について考えることができる			講義・GW
12	紙上事例を通して主要症状をもつ子どもの一連のプロセスをもって考え、症状により支障をきたしている子どもと家族の看護を根拠を持って判断することができる			講義・GW
13	健康障害と入院が子どもと家族に及ぼす影響を踏まえ、健康回復を目指した看護計画を立案することができる			講義・GW
14	主要症状をもつ子どもの一連のプロセスをもって考え、症状により支障をきたしている子どもと家族の看護を根拠を持って判断し、回復に向けた看護を実践することができる			演習
15	リフレクションを通して、自己の課題に気づき、自ら解消することができる			演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	母性看護学概論	1 (30)	10年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	母性看護の基盤となる概念を学ぶ。女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指し、健全なライフサイクルを送るための看護に必要な基礎的能力を養う。また、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状に関し、統計や法律・施策を知り母性看護の課題や役割を学ぶ。			
授業目標	1. 母性看護の概念を知り、リプロダクティブヘルス/ライツについて理解できる 2. 母性看護の歴史と現状を知り、母性看護の提供システムが理解できる 3. 妊娠期・分娩期に見られる異常、妊婦・産婦・胎児に起こる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 母性看護学概論 医学書院			
評価方法	記述試験80%、レポート20%			

回	授業内容と成果	方法
1	母性看護学における母性のとらえ方について理解できる	講義
2	1) セクシュアリティの概念について知り、その発達課題が理解できる 2) リプロダクティブヘルス/ライツの概念が理解できる 3) ヘルスプロモーションの考え方が理解できる	講義・演習
3	1) 母性看護における倫理的問題と、看護職者としての倫理的意思決定の実際が理解できる 2) 母性看護における安全・事故防止策が理解できる	講義・演習
4	母性看護の歴史と統計的指標からの変遷が理解できる	講義
5	母性看護にかかわる法律と施策から、母性看護の現状が理解できる	講義
6	母性看護が提供される場や職種、提供システムについて理解できる	講義・演習
7	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化が理解できる	講義
8	女性のライフサイクルと家族の発達段階とその看護が理解できる	講義
9	ライフサイクル各期に共通する看護が理解できる	講義
10	思春期の健康と看護が理解できる	講義・演習
11	性成熟期の健康と看護が理解できる	講義・演習
12	更年期・老年期の健康と看護が理解できる	講義・演習
13	リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づいた家族計画の考え方が理解できる	講義
14	主な性感染症の概要と予防法や感染した妊婦への看護について理解できる	講義
15	妊娠中絶・喫煙・DVと女性の健康について現状を知り、看護者としての対応を理解できる	講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	母性看護援助論 I	1 (30)	27年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	妊娠期・分娩期における母性と胎児の健康の保持・増進、およびその家族に対する看護を学ぶ。各期の生理的变化とセルフケア支援の方法とハイリスク状態についても理解し、母子と家族への看護の方法を学ぶ。			
授業目標	1. 妊娠期・分娩期の妊婦・産婦の身体的変化、心理・社会的変化が理解できる 2. 妊婦および胎児のアセスメント、妊婦の保健相談、家族を含めた看護が理解できる 3. 妊娠期・分娩期に見られる異常、妊婦・産婦・胎児に起こる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 母性看護学各論 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	妊娠の生理、胎児の発育とその生理が理解できる	講義		
2	母体の生理的变化が理解できる	講義		
3	妊婦の心理的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題が理解できる	講義		
4	妊婦と胎児の健康状態のアセスメントの視点が理解できる	講義		
5	妊婦のセルフケア能力を高める援助について理解できる	講義・演習		
6	妊娠健康診査と各時期における保健相談・教育について理解できる	講義・演習		
7	ハイリスク妊娠とその要因について理解できる	講義		
8	ハイリスク妊婦の看護が理解できる	講義		
9	分娩の要素と分娩経過が理解できる	講義		
10	分娩の正常な進行と産婦・胎児の健康状態のアセスメントの視点が理解できる	講義・演習		
11	分娩の進行に沿った援助の実際が理解できる	講義・演習		
12	産婦の家族への看護が理解できる	講義		
13	産道の異常・娩出力の異常と看護が理解できる	講義		
14	胎児の異常による分娩障害・胎児の付属物の異常が理解できる	講義		
15	分娩時異常出血・産科処置と産科手術と看護が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	母性看護援助論Ⅱ	1 (30)	21年	看護師として病院に勤務
			10年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	産褥期・新生児期における母子の健康の保持・増進、およびその家族に対する看護を学ぶ。各期の生理的变化とセルフケア支援の方法とハイリスク状態についても理解し、母子と家族への看護の方法を学ぶ。さらに、母性看護学における看護過程の展開方法を理解し、事例を用いて正常な経過をたどる褥婦・新生児の看護について学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 産褥期の褥婦の身体的変化、心理・社会的変化が理解できる 新生児の生理と子宮外生活適応現象への看護が理解できる 妊娠期・分娩期に見られる異常、妊婦・産婦・胎児に起こる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について理解できる 産褥期・新生児期に見られる異常、褥婦・新生児に起こる問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	専門分野 母性看護学概論 医学書院 専門分野 母性看護学各論 医学書院 e ナーストレーナー 医学書院			
評価方法	記述試験70% レポート30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	産褥期の身体的変化・心理・社会的変化が理解できる	講義		
2	産褥経過の診断と褥婦の健康状態のアセスメントの視点が理解できる	講義		
3	褥婦と家族の看護が理解できる	講義		
4	産褥の異常と看護が理解できる	講義		
5	産褥の異常と看護が理解できる	講義		
6	新生児の生理と子宮外生活適応現象が理解できる	講義		
7	新生児のアセスメントの視点が理解できる	講義		
8	新生児の出生直後から退院までの看護が理解できる	講義		
9	新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児と看護が理解できる	講義		
10	高ビリルビン血症、新生児出血性疾患と看護が理解できる	講義		
11	母性看護における看護過程の展開方法の概要が理解できる	講義・演習		
12	事例) 妊娠期・分娩期・産褥期の経過と胎児・新生児の情報の整理とアセスメントができる	講義・演習		
13	事例) 褥婦・新生児の全体像を捉え、看護上の問題を明確にできる	講義・演習		
14	事例) 看護計画立案・実施方法が理解できる	講義・演習		
15	事例) 母性看護の評価方法が理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	精神看護学概論	1 (30)	15年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	看護の対象である人間のこころとは何かを自分自身に問いかけつつ、「こころ」を知ることに興味をもって学習する。これにより、精神障害の基本である人間関係の構築に必要な「自己理解」「他者理解」「共感」「傾聴」について学び、精神看護の目的、基本的知識、看護の役割について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康、精神の障害について理解できる。 2. 精神の健康を脅かす環境要因を理解し、その予防や支援の実際が理解できる 3. 精神医療と精神看護の歴史的変遷が理解できる 4. 精神保健福祉法の現状や法制度とその課題から、看護師としての責務が理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 精神看護の基礎			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題 20%			
回	授業内容と成果	方法		
1	現代社会における精神保健・看護のニーズの高まりの背景が理解できる 精神看護学の目的と基本的考え方が理解できる	講義 講義		
2	精神の健康とは何か、精神が健康であるために必要なことが理解できる 精神の障害の定義ととらえ方が理解できる	講義・演習 講義・演習		
3	ストレスと精神の健康における危機について理解できる	講義・演習		
4	ストレス対処行動と危機理論について理解できる 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響が理解できる	講義・演習 講義・演習		
5	人間の心の諸活動が理解できる 心のしくみと人格の発達を理解できる	講義・演習 講義・演習		
6	脳の仕組みと精神の機能が理解できる	講義・演習		
7	ライフサイクルにける精神保健の実際が理解できる	講義		
8	ライフサイクルにける精神保健の実際が理解できる	講義		
9	生活の場における精神保健の概要が理解できる	講義		
10	精神看護の対象としての家族と集団について理解できる	講義		
11	人間の成長と回復にとっての集団の役割が理解できる	講義		
12	日本と欧米における精神医療と精神看護の歴史的変遷が理解できる	講義・演習		
13	日本の精神医療の現状と課題について理解できる	講義・演習		
14	精神看護の基本となる法と精神科領域で必要な法律・法制度が理解できる	講義・演習		
15	法律・制度における課題と主要な精神保健医療福祉対策が理解できる リエゾン精神看護の実際が理解できる	講義・演習		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	精神看護援助論 I	1 (15)	15年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	精神障害をもつ人が安定した地域生活を継続するための原則と看護を理解できる。また、様々な場において精神の健康を守るための看護の役割を理解できる。			
授業目標	1. 精神障害をもつ人の生活を支える精神保健と精神看護について理解できる 2. 地域で生活する精神障害をもつ人の家族への援助について理解できる 3. 学校、職場、災害時の精神看護の実際が理解できる 4. 精神障害をもつ人の生活を支えるための社会資源の活用と多職種連携の実際が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 精神看護の展開			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、演習課題 20%			
回	授業内容と成果			方法
1	精神障害をもちながら地域で生活するための原則が理解できる			講義
2	生活を支えるための社会資源・サービスとマネジメントについて理解できる			講義・演習
3	精神障害をもつ人の地域生活を支えるための援助の実際を理解できる			講義・演習
4	精神障害をもつ人の家族への支援の実際を理解できる			講義・演習
5	学校における精神保健と精神看護の特徴と支援の実際が理解できる			講義・演習
6	職場における精神保健と精神看護の特徴と支援の実際が理解できる			講義・演習
7	災害時の地域における精神看護の実際が理解できる			講義・演習
8	精神障害をもつ人の生活を支えるための多職種連携の実際が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	精神看護援助論Ⅱ	1 (30)	12年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	主な精神疾患の概念や治療および看護の基本的知識をふまえたうえで、それらの障害をもつ対象の特徴を理解し、精神的な健康を目指した看護を理解する			
授業目標	1. 主な精神疾患・障害の特徴が理解できる 2. 精神疾患における検査、治療について理解できる 3. 看護師が精神に障害をもつ人とかかわる際に求められる基本的な姿勢・態度が理解できる 4. 精神障害をもつ人への基本的な援助の方法が理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 精神看護の基礎、精神看護の展開 e ナーストレーナー			
評価方法	記述試験70%、出席状況、授業態度、演習課題 30%			
回	授業内容と成果	方法		
1	精神看護における「症状のとらえ方」が理解できる 精神機能障害の症状の特徴が理解できる	講義・演習		
2	精神障害の診断と分類、それに基づく精神障害が理解できる(統合失調症)	演習・GW		
3	精神障害の診断と分類、それに基づく精神障害が理解できる (気分障害、神経障害、ストレス関連性障害、生理障害及び身体要因に関連した行動症候群)	演習・GW		
4	精神障害の診断と分類、それに基づく精神障害が理解できる(パーソナリティ障害、器質性精神障害、精神作用物質使用による精神・行動障害)	演習・GW		
5	精神障害の診断と分類、それに基づく精神障害が理解できる (てんかん、神経発達障害群、習慣及び衝動の障害、心身症)	演習・GW		
6	精神科における治療の特徴が理解できる 精神治療における正確で安全な薬物治療の基本が理解できる	講義 講義		
7	精神治療における精神療法の実践が理解できる 精神治療における環境療法・社会療法の実践が理解できる	講義 講義		
8	精神障害をもつ人へのケアの前提となる感情について理解できる 精神障害をもつ人へのケアの原則とケアにおける人間関係が理解できる	演習・GW 演習・GW		
9	精神障害をもつ人への回復を支える治療的アプローチが理解できる	演習・GW		
10	入院治療と回復を促す治療的環境を作るための看護師の役割が理解できる	演習・GW		
11	精神看護におけるリスクマネジメントの考え方と方法が理解できる	演習・GW		
12	精神療法としての身体ケアが理解できる	演習・GW		
13	身体合併症の観察と身体ケアが理解できる	演習・GW		
14	統合失調症をもつ人のアセスメントの視点と看護が理解できる	演習・GW		
15	抗精神病薬の治療を受ける人への援助が理解できる	演習・GW		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	災害看護と国際看護	1 (30)	19年	看護師として病院に勤務
科目のねらい	災害という特殊な状況の中で人々の生命や健康生活を支えるために、災害医療活動の特徴をふまえた災害看護の基礎的知識と技術を身につける。また、国際的グローバルな視点から健康問題をとらえ、諸外国との協力と看護を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療の基本的知識が理解できる 2. 災害医療の特徴から、災害看護の役割と機能が理解できる 3. 災害時に必要なトリアージと応急処置が実施できる 4. 海外の医療・看護に触れ、海外に対する自己の視野を広げ、国際看護について理解できる 5. 異文化を知るとともに、基本的生活習慣の違いから医療・看護活動の実際が理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学			
評価方法	記述試験60%、出席状況、授業態度、演習課題 40%			
回	授業内容と成果	方法		
1	看護職者に求められるグローバルな視点が理解できる	講義		
	災害看護・国際看護の原則が理解できる	講義・演習		
2	災害看護の歩みと災害医療の基礎が理解できる	講義・演習		
3	災害看護の基礎が理解できる	講義		
4	災害時に必要なトリアージが実施できる	実技		
5	災害時に必要な応急処置が実施できる	実技		
6	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護が理解できる	演習・GW		
7	被災者の特性に応じた災害看護の展開が理解できる	演習・GW		
8	災害時のこころのケアの実際が理解できる	演習・GW		
9	災害机上シミュレーションにより、地震災害における発災直後から急性期の看護展開が理解できる	シミュレーション		
10	地震災害における亜急性期から慢性期・復興期の看護展開が理解できる	演習		
11	世界の健康問題の現状と国際協力について理解できる	講義		
12	グローバルヘルスの歴史的変遷と現状の課題が理解できる	演習・GW		
13	国際協力のしくみが理解できる	演習・GW		
14	文化を考慮した看護と国際看護活動の展開が理解できる	演習・GW		
15	開発協力と国際救援と看護の実際が理解できる	演習・GW		